

605-122



1200501532069

05

122

口
複
写

事故本

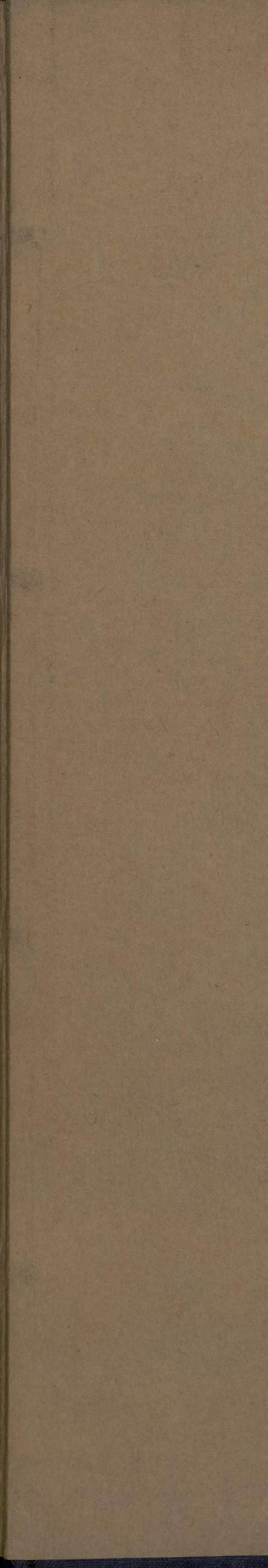
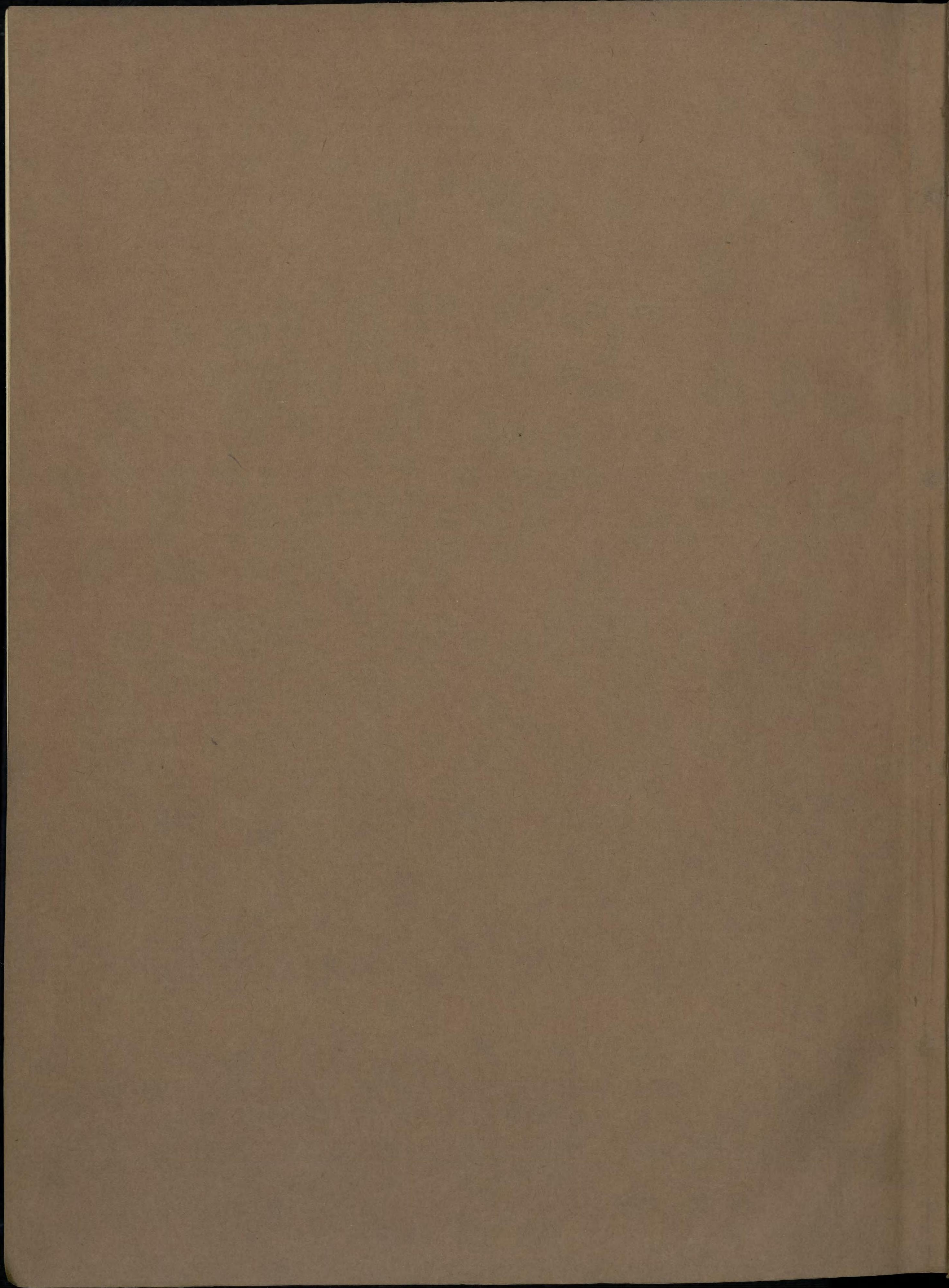
書込あり

p.70, 197, 213,
228~231, 240

同本あり: 586.57-N685

2009.11.6

70



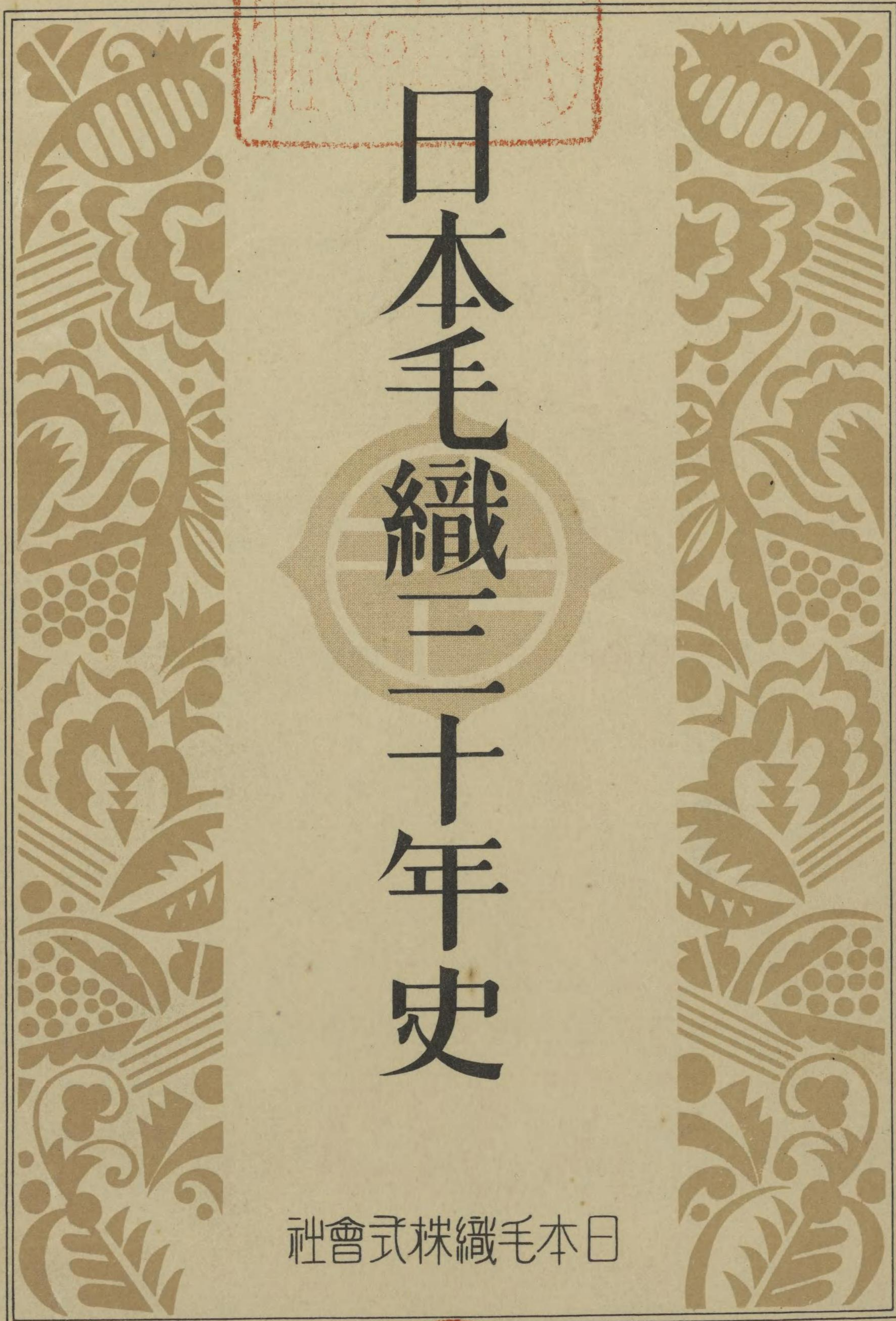
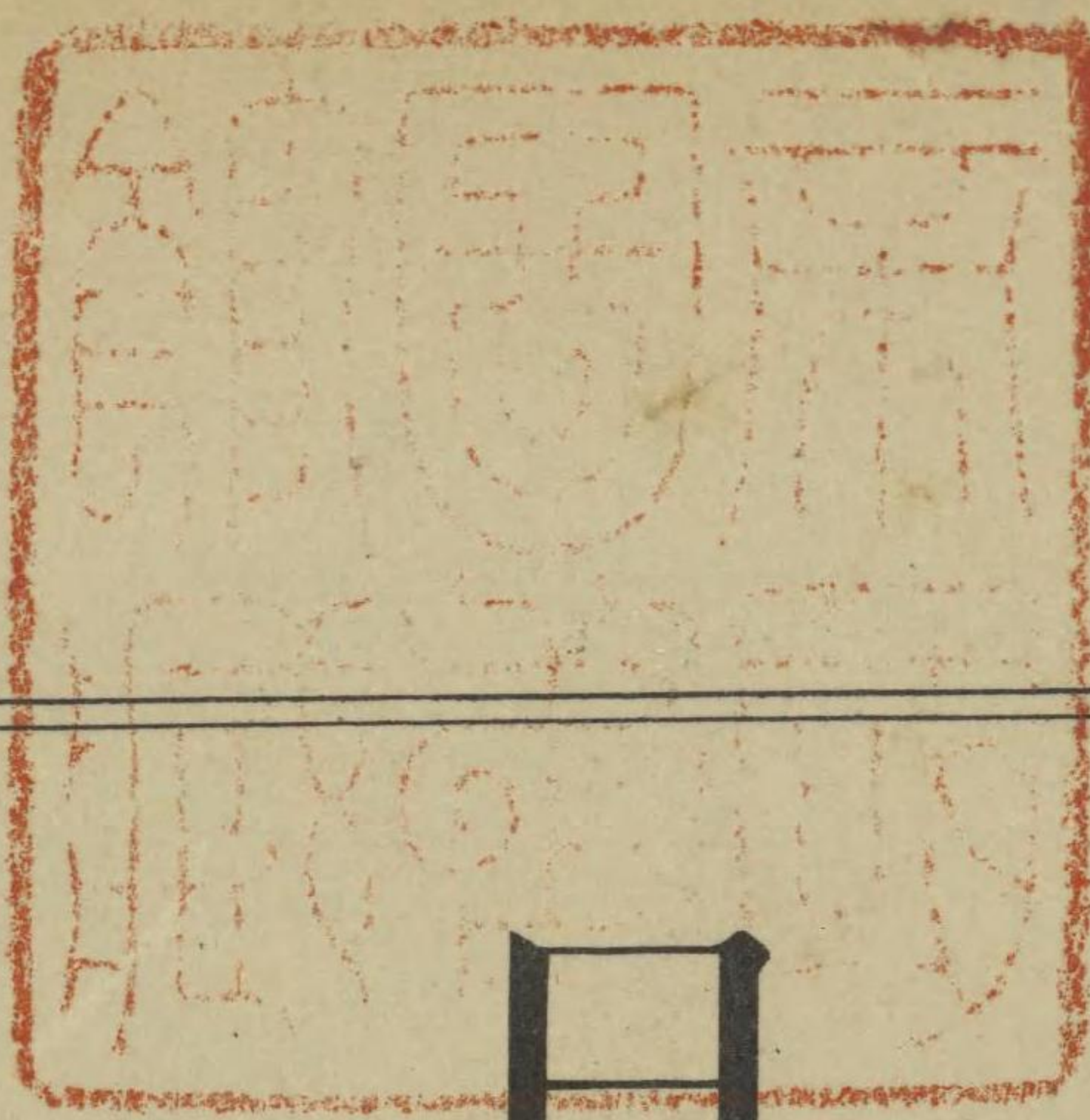
05

22



605

122



日本毛織三十年史

日本毛織株式會社



白

物 民

阜

序

儀
生

白

物民

倭生

阜原

1-122

序

序

我が社創立以來、今年を以て正に三十四年に達しぬ。人生三十年決して長き歲月と謂ふべからざるも、此の間、我が羊毛工業發達の徑路を顧みれば、實に幾多の波瀾變遷を重ねたり。即ち日清日露兩戰役前後の財界波動に由る影響を始め、歐洲大戰後の大反動、關東震災の被害、昭和二年の大恐慌等擧げ來れば何れも斯業界の苦難ならざるはなし。しかも此の間我が同業者は幾度かの淘汰に遭ひ、三十年無傷のまゝに繼續し來れるもの殆ど稀なり。我が社もまた此の間幾多の苦難に遭遇したれども、幸に一難ある毎に一倍の生長を遂げ、基礎は愈々鞏固に、實力また年と共に増進するに至れり。小篇日本毛織三十年史は即ちこれが業績を記録し、記念せんがための出版なり。

惟ふに、我が羊毛工業は、これを綿絲紡績業に比すれば未だ發達の過程にありれども、時代文化の趨勢に觀れば將來極めて重要な國家の産業たるべきなり

我が社の使命や重しと謂はざるべからず。而も將來斯業の改善擴張すべきもの多々あり、最善の努力を以て最良の解決を與へんことを期す。今に於て既往の三十年を顧みれば、其の進歩の跡異常なるものありと雖も、更に將來の三十年に想到すれば、其の變化や一層大なるものあらん。蓋し帝國々運の發展は窮りなく、時代文化の趨勢進んで已まざるべければなり。

こゝに、日本毛織會社三十年史を出版するに當り、聊か所懐を述べて序となす。

昭和五年十一月

日本毛織株式會社々長

門田清太郎

本書の編纂に就て

本書はもと本社創立三十年の記念事業として出版する計畫の下に、昭和三年五月編纂に着手したものである。初めの計畫では、本社の徑路と地位を對照するために、可成詳細に我が羊毛工業界の推移變遷を織り込む積りであつた。そこで、先づ斯界の全般に亙りて史料の蒐集を試みた。ところが、斯界の古い記録や文獻は極めて尠く、殊に、中央の諸官廳や東京の各毛織會社のものは、往年の大震災で多く喪失してゐたので、これには尠からず弱らされた。

かうした資料穿鑿に意外の日子を費した後、本社の書庫をあさる事となつたが、これも歐洲大戰以前の記録は大部分散逸して、據るべきものが極めて乏しいので、専ら古い社員の記憶を辿つたり、また長い取引先の意見を叩いて基礎資料を纏め、之に累年の新聞雜誌記事や統計表を獵つて考證を索めることとした。そして、此の間更に圖表や、統計表の製作に時日を費し遂に同年を準備事業のために暮して了つた。

斯くて、愈々本文を起稿したのが翌昭和四年の二月である。それから五月の末には原稿が纏まつたので、重役の檢閲を経ることとなつた。其の結果、再調を要するものや訂正すべき箇所を正し、殊に省約すべき點があつたので、全部稿を改めて稿文の約三分の一を削除することとなつた

そして、之に其の後の徑路を増補し、愈々全篇脱稿を告げたのは、翌昭和五年の秋まだ淺き九月の半ばであつた。

本書沿革編には可成考證資料を添載する筈であつたが、上述の理由で總て之を省略することとした。編纂期の遅延した事情と共に、此の點は切に大方の諒恕を乞ふ。

本書資料の蒐集に當りて、社内社外の關係諸氏が、此の事業のために後援を吝まず、調査に照會に、多大の便宜を與へられたことは、編者の感謝する所である。また本書の刊行に際して、斯界の先輩深澤甲子男氏が、特に監修の任に當られたことは、編者の意を強うする所であつて、装幀に編輯に勞を費されたことは甚大であつた。こゝに深く謝意を表するものである。

昭和五年十一月

小 谷 竹 三 郎

當會社の榮譽

各博覽會共進會出品誌

國會の報告

國會の報告

光 榮

明治三十五年春 明治天皇舞子巡幸の砌縣下の製産品を天覽に供す。 當社製白毛布外八點も其の光榮に浴す。

明治三十六年春神戸港に於て大觀艦式御舉行の砌舞子行在所より特に米田侍従を勅使として當社加古川工場に御差遣あらせられ具さに作業狀況を視察せしめらる。

明治三十六年七月第五回内國勸業博覽會に出品せし當社製品數點皇室御買上の榮を賜はる。

明治四十年五月第九回關西府縣聯合生産品共進會に出陳せし當會社の茶褐絨は 有栖川宮殿下の御買上を賜はる。

明治四十一年十一月神戸港に於て大觀艦式御舉行の砌 明治天皇舞子行在

所に於て縣下の重要製産品を天覽に供す、當社製品も其の光榮に浴し陸軍茶褐霜降絨及び白毛布の二種御買上の榮を賜はる。

明治四十二年四月 東宮殿下舞子行啓の砌陸軍茶褐霜降絨、朱子目外套地袴絨、夏服セル地、白毛布及び模様入毛布の六種御買上の榮を賜はる。

明治四十三年十一月岡山縣下に於て陸軍大演習の砌 明治天皇行在所に於て各製産物を天覽に供す、當時供進の當社製茶褐霜降絨、朱子目絨、袴絨及び白毛布の四種御買上の榮を賜はる。

明治四十四年五月貿易製産品共進會に 東宮殿下行啓の砌當社製縞メルト
ン御買上の榮を賜はる。

大正六年六月 閑院宮載仁親王殿下姫路工場に御臺臨あらせらる。

大正七年十一月 伏見宮博恭王殿下加古川工場に御臺臨、場内を御視察あらせらる。

大正十年五月 皇后陛下九州行啓の御途次須磨離宮に御滞在の砌當社製白

ン御買上の榮を賜はる。

大正六年六月 閑院宮載仁親王殿下姫路工場に御臺臨あらせらる。

大正七年十一月 伏見宮博恭王殿下加古川工場に御臺臨、場内を御視察あらせらる。

大正十年五月 皇后陛下九州行啓の御途次須磨離宮に御滞在の砌当社製白毛メリヤス御肌衣、白毛メリヤスペテーパーコート之二種奉獻せしところ御嘉納あらせられ更に淡紅色毛メリヤス御肌衣、同ペテーパーコート之二種御買上の榮を賜はる。

大正十年九月 李王世子殿下各務ヶ原航空隊御見學の爲御來岐の砌岐阜工場御視察の榮に浴す。

昭和三年十月京都に於て御大典舉行の砌當社は兵庫縣知事を経てカシミヤクツシヨン、白毛メリヤスシャツ、ズボン下之二種を奉獻せしところ御嘉納あらせらる。

昭和四年六月 天皇陛下關西巡幸の砌兵庫縣廳に於て縣下の重要製産品を天覽に供す。当社製品も其の光榮に浴し白毛メリヤスシャツ、ズボン下、合服地の二種御買上の榮を賜はる。尙當時當社は纈纈花氈、製品見本帖を奉獻

せしところ御嘉納あらせらる。

昭和五年六月 天皇陛下關西行幸の砌加古川工場に待從御差遣の光榮に浴し且つ兵庫縣廳に於て當社謹製品も天覽の榮を賜はり、加古川工場謹製の霜降スコッチ及び純毛メリヤス御肌衣御買上げの恩命を賜はる。

博覽會受賞

第三回織物展覽會

一等金牌

明治三十三年四月開會せる大日本織物協會主催の本會に於て當會社の製品は上記の金牌を受領す

神戸市製産物品評會

一等褒賞

明治三十三年四月神戸市開催の本會に於て當會社の製品は上記褒賞を受く。

第七回關西各府縣聯合生産品共進會

二等賞銀牌

明治三十五年四月農商務省の主催の本會に於て當會社の製品は上記賞牌を授けらる。

第五回内國勸業博覽會

名譽銀牌

明治三十六年陽春四月東京市に開會せる農商務省主催の本博覽會に於て當社の出品は審査の結果

上記名譽章を授與せらる。

第四回全國製産品博覽會

一等進歩牌

明治三十八年四月京都市に開會せる本博覽會に於て當會社の出陳せる製品は審査の上技術の進歩著しとなし上記賞牌を授與せらる。

第九回關西各府縣聯合生産品共進會

一等金牌

明治四十年四月農商務省主催の本會に於て當會社の製品は審査の結果上記金牌を授けらる。

東京勸業博覽會

記念名譽銀牌

明治四十年五月東京府主催の本會に於て當會社の製品は優良と認められ、記念名譽銀牌を授與せらる。

第十回各府縣聯合生産品共進會

一等賞金牌

明治四十三年五月農商務省主催の本會に於て當會社の製品は最も優良と認められ上記金牌を受領す。

記念名譽銀牌

明治四十年五月東京府主催の本會に於て當會社の製品は優良と認められ、記念名譽銀牌を授與せらる。

第十回各府縣聯合生産品共進會

一等賞金牌

明治四十三年五月農商務省主催の本會に於て當會社の製品は最も優良と認められ上記金牌を受領す。

貿易製産品共進會

名譽大賞

明治四十四年四月神戸商業會議所主催の本會に於て當會社の出品は上記名譽大賞を授けらる。

中國六縣製産品共進會

名譽大賞

明治四十五年四月姫路市主催の本會にて當社の製品は最高の名譽大賞を受領す。

帝國製産品共進會

一等賞金牌

大正三年秋大正天皇御即位記念として、姫路市に開ける本會に於て當會社の製品は上記の金牌を受領す。

第二回貿易製産品共進會

名譽大賞

大正三年五月神戸市主催の本會に於て當會社は場内特設館を設け數十點の出品をなしたるが觀衆の好評噴々製品は例により、最高の名譽大賞を受領す。

第一回發明品博覽會

二等賞銀牌

大正三年五月大阪市に開會せる本會に於て當會社の防縮加工品は上記賞牌を受く。

桑港萬國大博覽會

名譽賞

大正四年米國サンフランシスコ市開會の萬國大博覽會に於て當會社の製品は上記名譽金牌を受領す。

臺灣勸業博覽會

一等金牌

大正五年臺灣鐵道開通記念として臺中に開催せる本博覽會に於て當會社の製品は上記の榮譽を得す。

畜産工藝博覽會

名譽金牌

大正八年五月東京市上野公園に開催の本會に於て當會社は場内特設館を設け衆目を惹きたるが出品物は審査の結果上記最高の金牌を受領す。

臺灣勸業博覽會

一等金牌

大正五年臺灣鐵道開通記念として臺中に開催せる本博覽會に於て當會社の製品は上記の榮譽を獲得す。

畜産工藝博覽會

名譽金牌

大正八年五月東京市上野公園に開催の本會に於て當會社は場内特設館を設け衆目を惹きたるが出品物は審査の結果上記最高の金牌を受領す。

中國四國各縣聯合製產品共進會

名譽金牌

大正十年春姫路市に開會せる本會に於て當會社は場内特設館を設けて好評を博したるが出品物は審査の結果上記最高の大賞を受領す。

東京勸業博覽會

名譽大賞牌

大正十一年新緑五月東京府は世界大戦の平和克復を記念するため空前の大規模になる博覽會を上野公園に開催し全國の耳目を聳動せしむ、當會社は同業會社と聯合し金五萬圓を投じて壯麗なる羊毛工業館を場内に特設し觀衆の好評を博せり。當會社の出品物は本館主要の部分を占め最も衆目に映じたるが審査の結果最高の榮譽に値するものとなし頭記の賞牌を授與せらる。

國產品愛用巡回博覽會

名譽賞牌

大正十三年秋開催の本展覽會に於て當社の出品は巡回各地の好評を博し同會より記念狀を受く。

第一回畜産工藝博覽會

名譽賞牌

大正十四年五月東京市上野に開會せる本會に於て當會社は金一萬五千圓を費して壯麗なる特設出品館を設け場内に異彩を放ちたるが出品は審査の結果上記の賞牌を授與せらる。

大大阪記念博覽會

感謝狀

大正十四年春大阪毎日新聞主催の本博覽會に於て當社は場内特設館を設け衆目を惹きたるが主催者より感謝狀を受く。

大連勸業博覽會

一等賞大金牌

大正十四年九月大連市に催せる本會に於て當會社の出品は上記の最高賞牌を受く。

こども博覽會

褒狀

大正十五年東京及大阪に於て開催せられたる本會に於て當社の出品は一般の好評を博し主催者大阪毎日新聞により上記の褒狀を受く。

第二回化學工藝博覽會

大名譽賞牌

一等賞大金牌

大正十四年九月大連市に催せる本會に於て當會社の出品は上記の最高賞牌を受く。

こども博覽會

褒狀

大正十五年東京及大阪に於て開催せられたる本會に於て當社の出品は一般の好評を博し主催者大阪毎日新聞により上記の褒狀を受く。

第二回化學工藝博覽會

大名譽賞牌

大正十五年三月東京市上野公園に開ける本會に於て當社の製品は上記の最高賞牌を授けらる。

全國産業博覽會

名譽大賞 (毛織物)

名譽大賞 (陳列意匠)

大正十五年四月姫路市主催の全國産業博覽會に於て當社は壯麗なる意匠陳列場を設け衆目の焦點となりたるが同會は審査の結果上記各賞を授與せらる。

産業文化博覽會

感謝狀

大正十五年九月より東京に開會せる本會に於て當社の製品は主催者中外商業新報社より感謝狀を送らる。

汽車巡回博覽會

感謝狀

大正十五年秋開催せる本會に於て當社の出品は主催者より感謝狀を受く。

國產愛用巡回博覽會

感謝狀

大正十五年秋舉行の本會に於て當社の出品は參考品として賞讃を博し主催者より感謝狀を受く。

兵庫縣織物博覽會

感謝狀

大正十五年十一月開催の本會に於て當社の出品は主催者より感謝狀を受く。

新竹州共進會

褒狀

昭和元年十二月臺灣新竹に於て開會せる本會に於て當社の出品は褒狀を受く。

京都國產振興博覽會

一等賞金牌

朝日賞

昭和二年五月京都市に於て開會せる本會に出陳せる當社の製品は審査の結果本會及大阪朝日新聞社より上記の賞牌及賞狀を受く。

東亞勸業博覽會

優良國產金牌

京都國產振興博覽會

一等賞金牌

朝日賞

昭和二年五月京都市に於て開會せる本會に出陳せる當社の製品は審査の結果本會及大阪朝日新聞社より上記の賞牌及賞狀を受く。

東亞勸業博覽會

優良國產金牌

昭和二年五月福岡市に開會せる本會に於て當社の製品は輸入對抗優良國產品たるの鑑査狀に添へ上記最高の賞牌を授與せらる。

國產振興染織工業博覽會

優良國產品證

昭和二年十月名古屋市に開催せる本會に於て當社の製品は優良國產品證を授與せらる。

大禮記念國產振興博覽會

優良國產賞牌

時事賞牌

昭和三年春東京商工會議所の主催により上野公園に開會せる本會は前回の平和博にも劣らざる大規模の博覽會なりき、此の時も亦當會社は同業會社と聯合し金三萬五千圓を投じて羊毛工業館を場内に特設し觀者の賞讚を博せり、當社の出品は殆ど館内の半ばを占めたるが審査の結果本會及時事新報社より上記最高賞牌を授けらる。

大日本勸業博覽會

名譽大賞牌

昭和三年三月より岡山市の主催により同市に開催せる本會に於て當社の製品は頭書の最高賞牌を授けらる。

中外産業博覽會

優良國産褒狀

昭和三年四月より別府市の主催により同市に開ける本會に於て當社の製品は上記の褒狀を送らる

第二回婦人子供博覽會

感謝狀

昭和三年三月より大阪市天王寺公園に開催せる本會に於て當社製品は主催者大阪毎日新聞社より感謝狀を送らる。

兵庫縣物産博覽會

記念褒狀

昭和三年四月姫路市に開催せる本會に於て當社の製品は優良品として記念褒狀を受く。

大典奉祝名古屋博覽會

名譽大賞牌 (毛織物)
功勞賞 (陳列意匠)

昭和三年九月名古屋市の主催により同市鶴舞公園に開催せる本會に於て當會社は金一萬圓を没じ

感謝状を送らる。

兵庫縣物産博覽會

記念褒状

昭和三年四月姫路市に開會せる本會に於て當社の製品は優良品として記念褒状を受く。

大典奉祝名古屋博覽會

名譽大賞牌 (毛織物)

功勞賞 (陳列意匠)

昭和三年九月名古屋市の主催により同市鶴舞公園に開催せる本會に於て當會社は金一萬圓を投じて場内に特に陳列場を設け衆目を惹きたるが審査の結果上記各賞牌を授與せられたり。

大禮記念京都博覽會

名譽大賞牌 (毛織物)

銀牌 (陳列意匠)

昭和三年秋京都市の主催により岡崎公園に開會せる本會に於て當會社は一萬五千圓を費して特に陳列場を設置し衆目を集めたるが陳列館及出品物に對し同會より上記最高賞を授與せらる。

昭和産業博覽會

功勞賞

昭和四年三月より廣島市の主催により同市に開會せる本會に於て當會社の陳列場及出品は上記最高賞牌を授與せらる。

大禮記念昭和勸業博覽會

名譽賞牌

昭和四年三月京都市に開催の本會に於て當社の製品及陳列意匠は上記の賞牌を授けらる。

朝鮮博覽會

名譽大賞牌

昭和四年九月より朝鮮京城に開會せる本會に於て当社より金一萬五千圓を費して場内に特に陳列場を設け觀衆の賞讚を博したるが出品物及陳列意匠に對し上記の最高賞牌を授けらる。

行幸記念發明品展覽會

感謝狀

昭和四年五月神戸市に催せる本會に於て當社の出品に對し感謝狀を受く。

日本毛織三十年史 目次

第一編 沿革……………一

第一章 緒言……………三

第二章 創業時代……………二

第一節 設立の由來……………三

第二節 創業期の苦難……………九

第三節 技術員を歐洲に派遣……………二四

第三章 日露戦後の發展時代……………二六

第一節 製絨事業の發展……………二六

第二節 梳毛事業の創設……………二九

第三節 日本毛糸紡績會社の設立……………三三

第四節 毛織合同運動と當社……………三三

第四章 歐洲大戰時の好況時代……………三六

第一節 露國軍用絨の引受……………三七

第二節 モスリン、毛絲の好況……………四一

第三節 原料、機械の輸入難……………四四

目次

目次

第四節 日本毛糸紡績會社合併…………… 四
第五節 未曾有の好成績…………… 五

第五章 歐洲大戰後の新發展…………… 五

第一節 戦後の反動と當社…………… 七
第二節 關東大震災とモスリン滯貨問題…………… 六
第三節 毛絲事業進出と昭和毛絲紡績の設立…………… 五
第四節 人絹及び毛メリヤス事業を開始…………… 六
第五節 毛織合同談の再燃と當社…………… 七

第二編 事業と組織…………… 八

第一章 營業機關…………… 八

第一節 神戸本店…………… 八
第二節 東京支店…………… 七
第三節 大阪出張所…………… 九
第四節 天津出張所…………… 九
第五節 製品…………… 九
第六節 取引先…………… 九

第二章 工場…………… 一〇

第一節 加古川工場…………… 一五
第二節 印南工場…………… 一三
第三節 姫路工場…………… 一八

第一節	神戸本店	八三
第二節	東京支店	八七
第三節	大阪出張所	九〇
第四節	天津出張所	九二
第五節	製品	九三
第六節	取引先	九七
第二章 工場		一〇四

第一節	加古川工場	一〇五
第二節	印南工場	一一三
第三節	姫路工場	一一八
第四節	岐阜工場	一二三
第五節	明石工場	一二五
第六節	名古屋工場	一二七
第七節	人絹工場	一三一

第三章 業務組織……………一三三

第一節	重役と株主	一三三
第二節	職制と分課	一四〇

第四章 福利施設と工手團體……………一五〇

第一節	福利施設	一五〇
第二節	工手團體	一六三

第五章 傍系會社……………一七六

第一節	昭和毛絲紡績株式會社	一七六
第二節	共立モスリン株式會社	一八二
第三節	日本モスリン株式會社	一九〇

目次

第三編 日本毛織株式會社外史……………一五

第一章 明治以前……………一九七

第一節 古代の毛織物……………一九七

第二節 幕末輸入の毛貨物……………一九九

第二章 明治初期……………二〇一

第一節 官設製絨所の創設……………二〇一

第二節 民間羊毛工業の萌芽……………二〇四

第三節 毛織物需給の徑路……………二〇六

第四節 濠洲羊毛輸入の端緒……………二〇九

第三章 日清戦後……………二一一

第一節 製絨事業の發展……………二一一

第二節 モスリン事業の勃興……………二一四

第三節 毛織小機業發展の動機……………二一七

第四章 日露戦後……………二一八

第一節 製絨事業の發展……………二一八

第二節 モスリン事業の發展……………二二〇

第三節 トップ事業と捺染加工……………二二四

第五章 歐洲大戰時代……………二二七

第一節 製絨事業の好轉……………二二七

第二節 モスリン事業の活躍……………二二九

第一節	製絨事業の發展	二二一
第二節	モスリン事業の勃興	二二四
第三節	毛織小機業發展の動機	二二七
第四章 日露戦後		二二八
第一節	製絨事業の發展	二二八
第二節	モスリン事業の發展	二三〇
第三節	トップ事業と捺染加工	二三四

第五章 歐洲大戰時代……………二二七

第一節	製絨事業の好轉	二二七
第二節	モスリン事業の活躍	二三九
第三節	羊毛事業熱の勃興	二四四

第六章 歐洲大戰後……………二二六

第一節	財界の反動と關東震災	二二六
第二節	有力毛織會社の破綻頻出	二四一
第三節	名古屋地方の毛織小機業	二四五

第七章 日本羊毛工業會……………二五〇

第一節	日本羊毛工業會の沿革	二五〇
第二節	毛織物關稅改正運動	二七〇

第四編 日本毛織株式會社年譜……………二六一

日本毛織株式會社年譜……………二六三

第五編 日本毛織株式會社事業に關する諸章程……………三〇三

日本毛織株式會社定款沿革	三〇五
日本毛織株式會社就業規則	三〇七

目次

目次

六

尙正會會則……………三三
敬愛會會則……………三四
モスリン振興會規約……………三五
大阪毛斯綸同盟會規約……………三五
專屬仲立人に關スル細則……………三五

附錄 諸統計……………卷末—四一

口繪寫眞

- 一 獻上品寫眞
- 一 博覽會出品寫眞
- 一 本社各工場全景
- 一 本社現重役と元重役

口繪圖表

- 一 一九二四年度主要羊毛消費國
- 一 ラシヤ、セル、ネル、生産並に輸入對照圖
- 一 ラシヤ、セル、ネル、毛布累年生産輸出入對照圖
- 一 昭和三年全國毛織物産額地方別圖表
- 一 累年羊毛輸入高と本社消費高對照圖

- 一 モスリン累年生産高並に累年輸出入高對照圖
- 一 全國累年毛絲、トップ生産輸入及本社生産對照圖
- 一 本社製品累年生産價額増減圖

- 一 本社各工場全景
- 一 本社現重役と元重役

口繪圖表

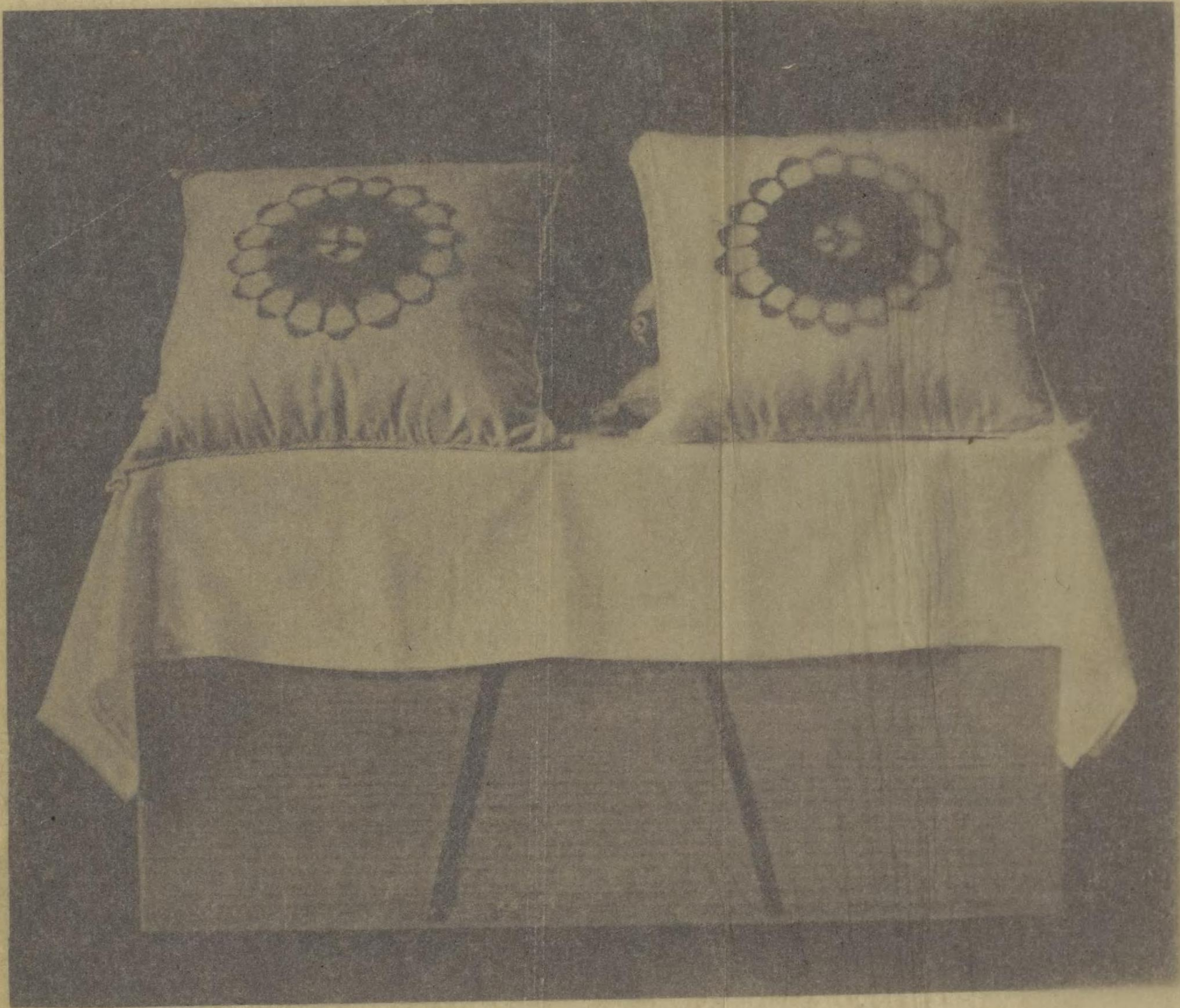
- 一 一九二四年度主要羊毛消費國
- 一 ラシヤ、セル、ネル、生産並に輸入對照圖
- 一 ラシヤ、セル、ネル、毛布累年生産輸出對照圖
- 一 昭和三年全國毛織物産額地方別圖表
- 一 累年羊毛輸入高と本社消費高對照圖

挿入寫眞

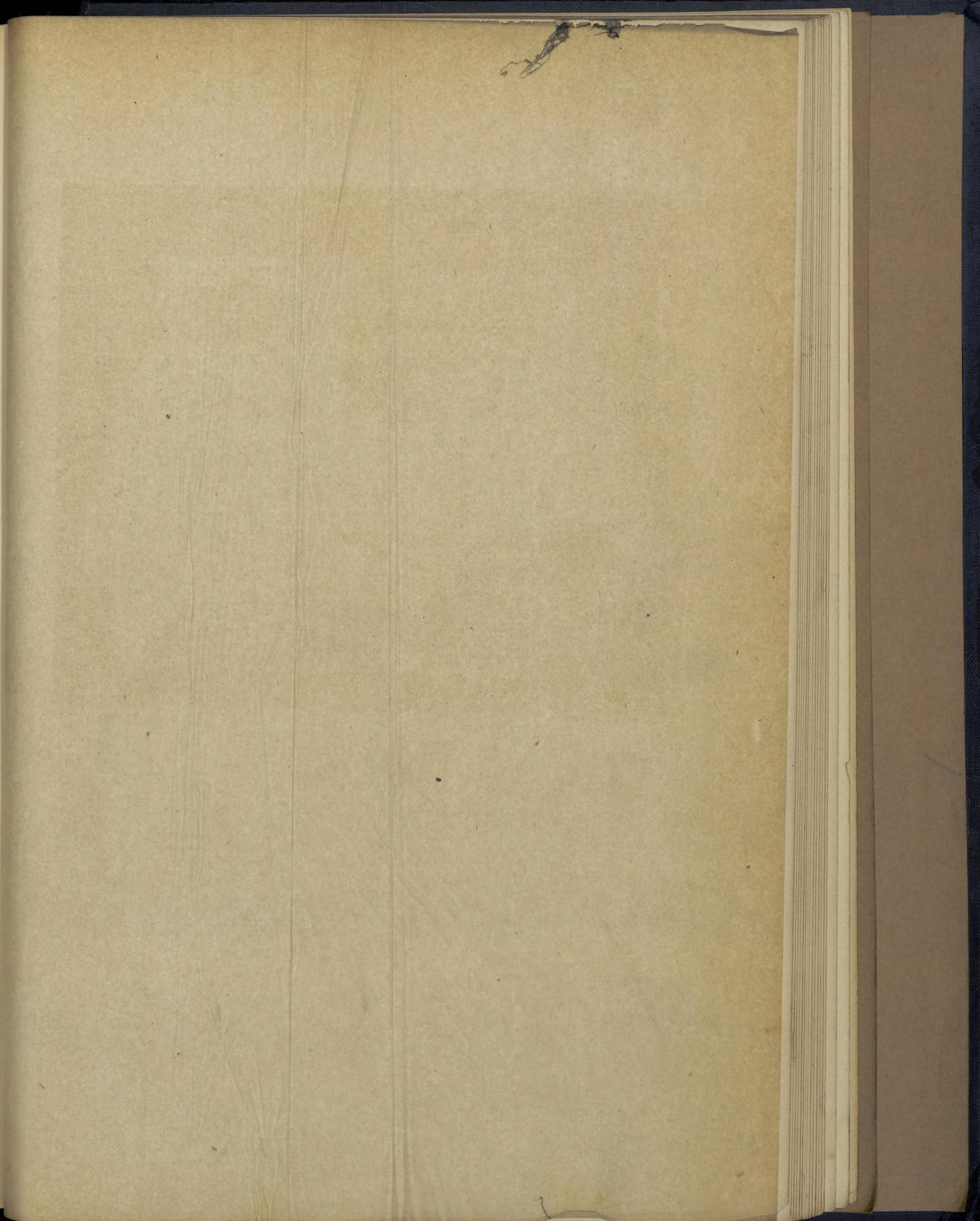
- 一 モスリン累年生産高並に累年輸出入高對照圖
- 一 全國累年毛絲、トップ生産輸入及本社生産對照圖
- 一 本社製品累年生産價額増減圖
- 一 本社製品内地、滿、鮮、灣販賣領域圖
- 一 本社累年利益率増減圖
- 一 本社各工場歷年並に社員工手増減圖
- 一 本社累年資本金及積立金社債増減圖
- 一 本社及び支店出張所
- 一 本店支店出張所社員
- 一 加古川、印南、姫路、明石、岐阜、名古屋各工場
- 一 各工場社員
- 一 本社元社員
- 一 昭和毛絲紡績株式會社工場及び社員
- 一 共立モスリン株式會社工場及び社員
- 一 日本モスリン株式會社工場及び社員

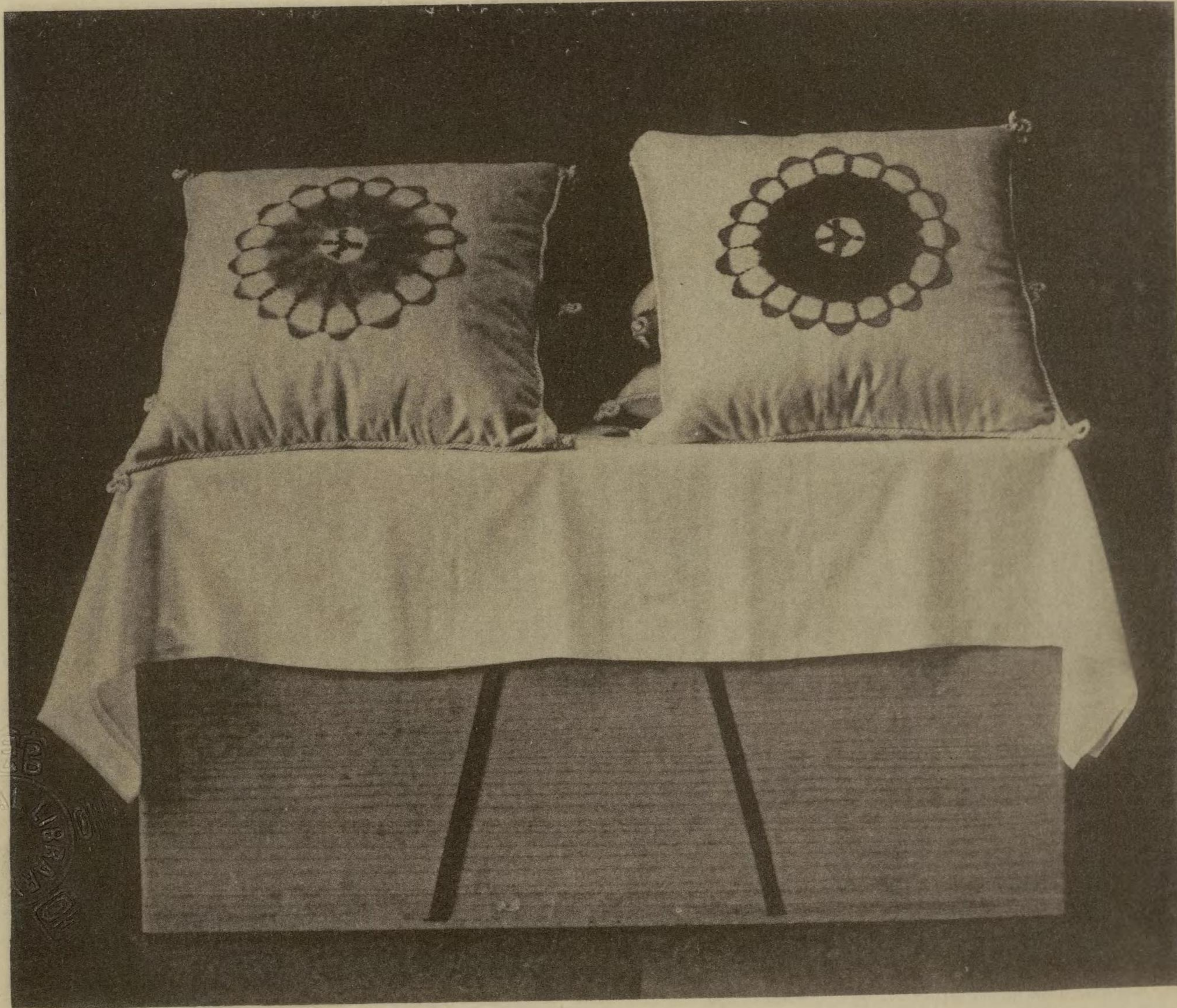
目次





昭和三年十月御大禮を奉祝し
皇室に献上御嘉納あらせられ
た本社謹製の「クツシヨ」

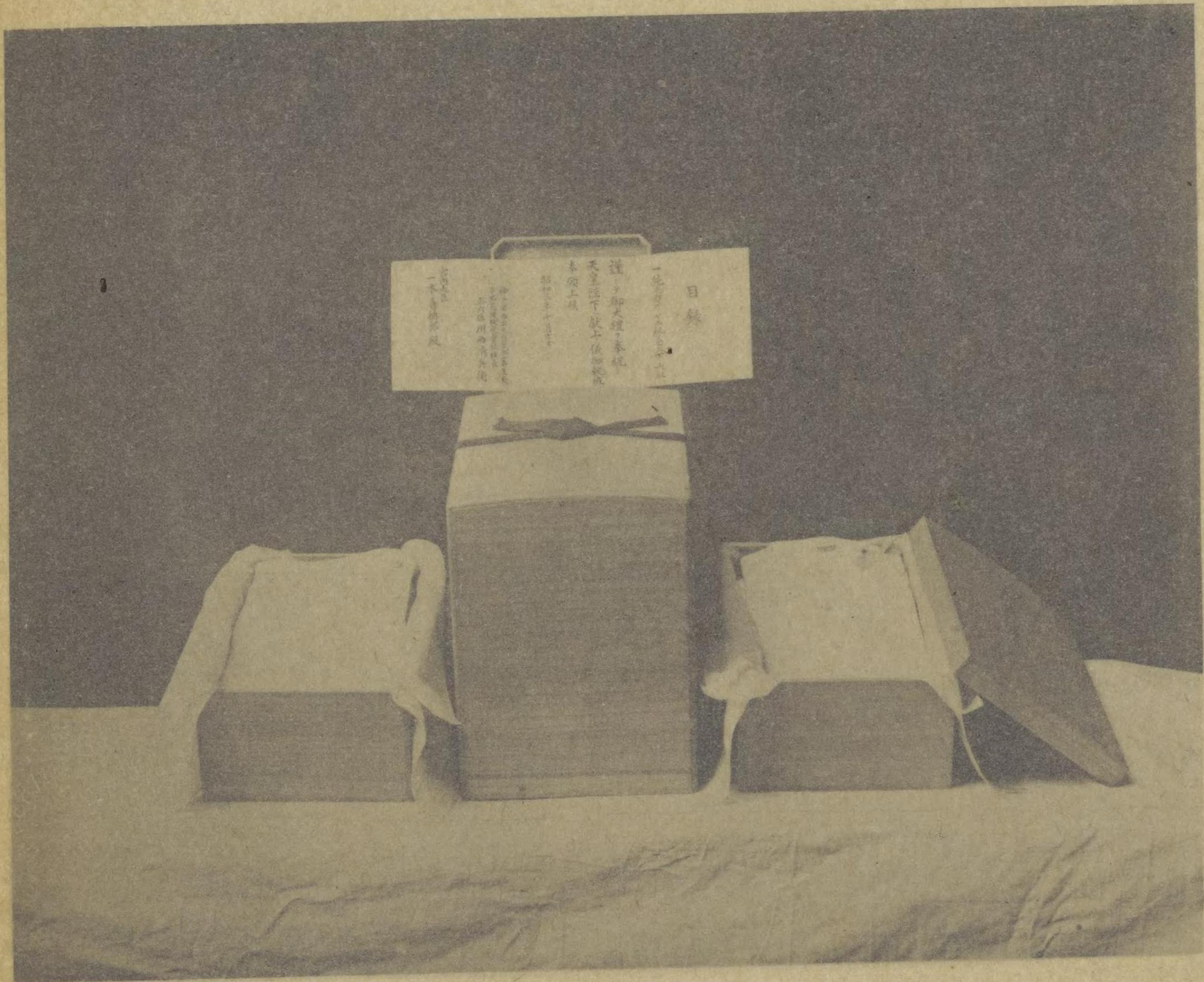




昭和三年十月御大禮を奉祝し
皇室に献上御嘉納あらせられ
た本社謹製の「クッション」



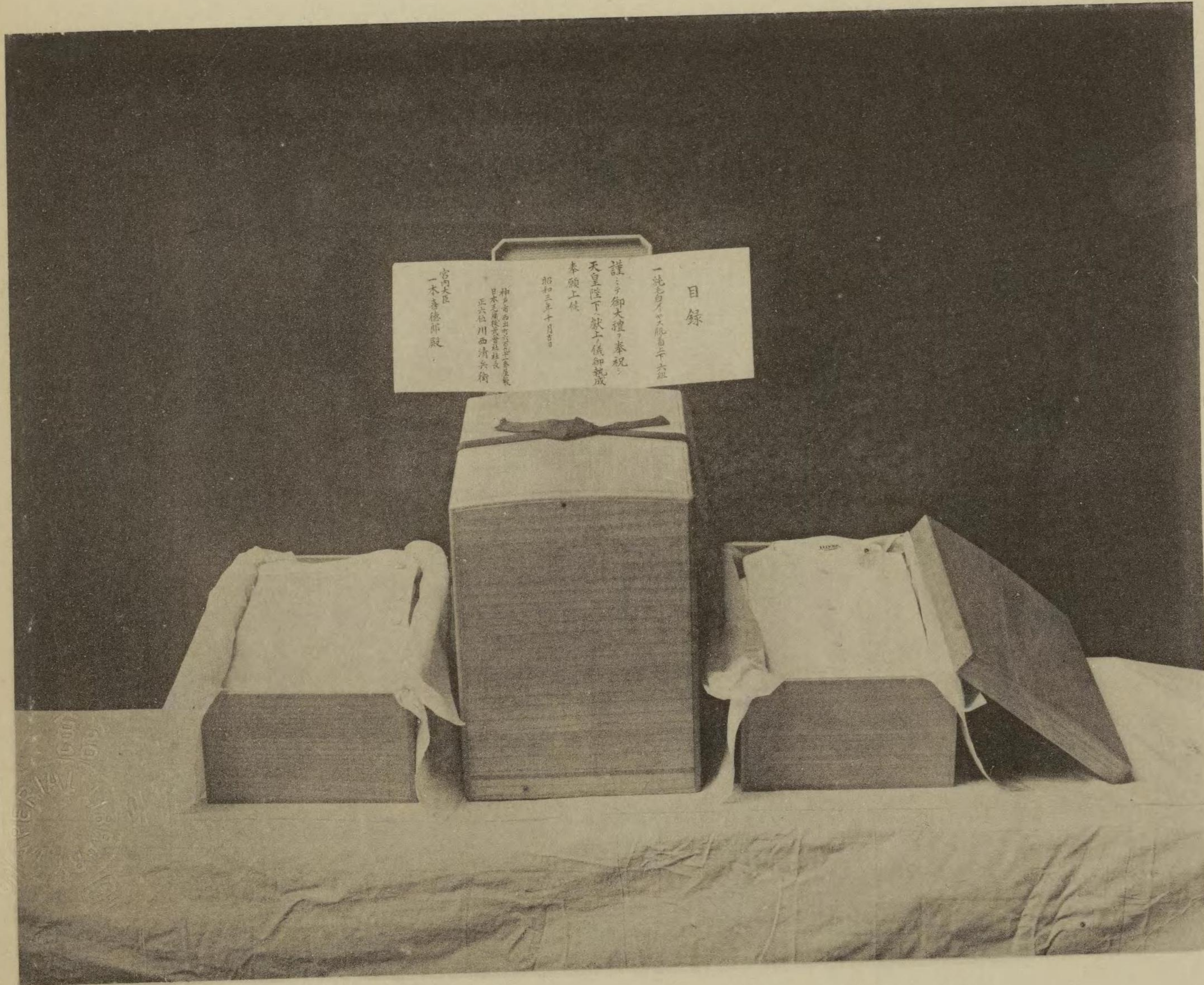
昭和三年三月
皇し祝祭を
らあ納意舞
リメ毛白ち



昭和三年十月十日大禮
を祝し富に献上
舞鶴のあちらせられた
る白毛リメヤス肌着



昭和三年
皇し祝奉を
らあ納嘉御
リメ毛白る



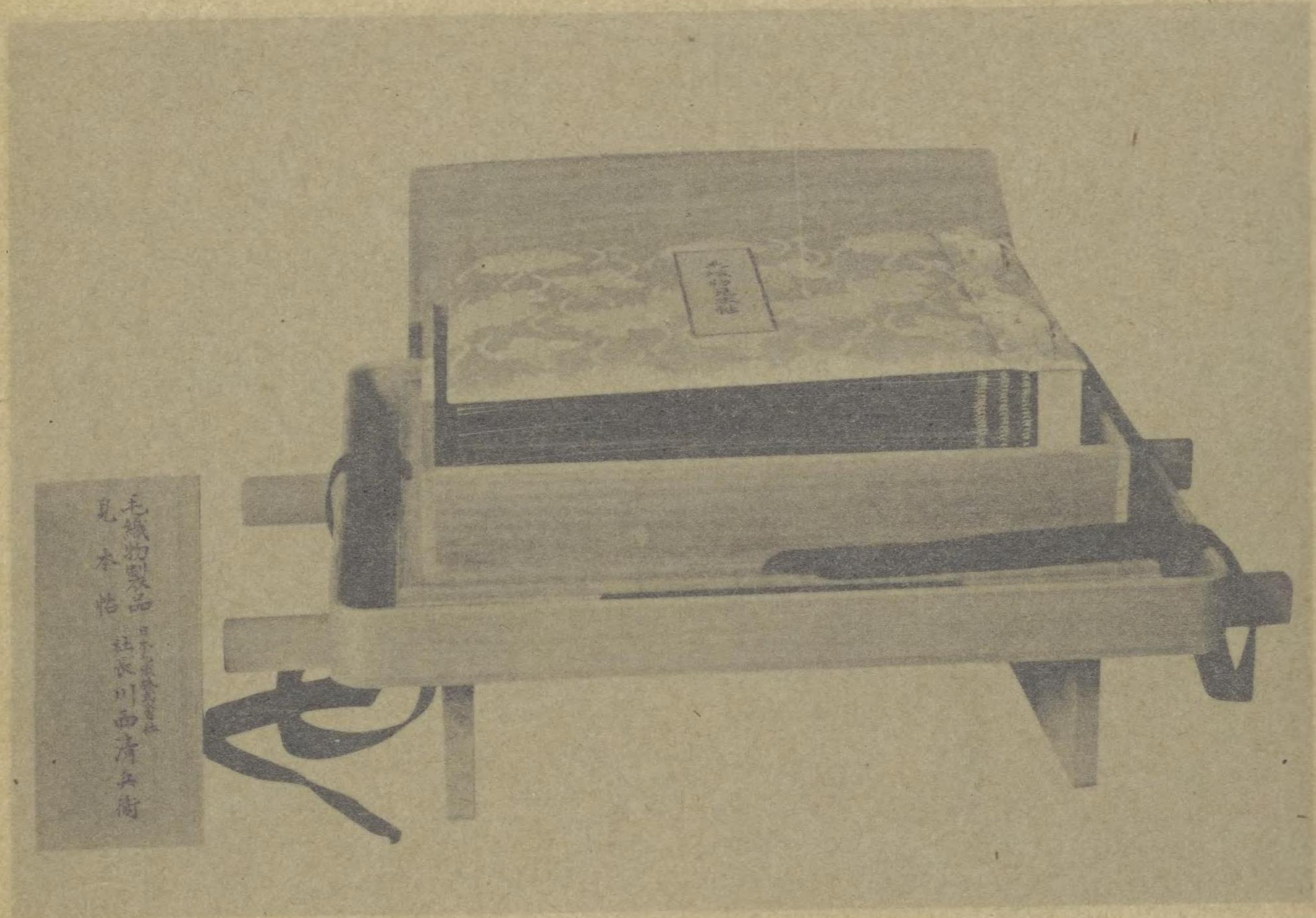
目録
一 此書の内容
謹 仰天禮奉祝
天皇陛下御上儀御祝成
奉願上様
昭和三年七月
東京市西區西船場
一 本巻巻頭

昭和三年十月大禮
上儀に皇室し祝奉を
たれらせらあ納嘉御
着肌スヤリメ毛白る



上野 月五年四和昭
れらせらあ納高機上



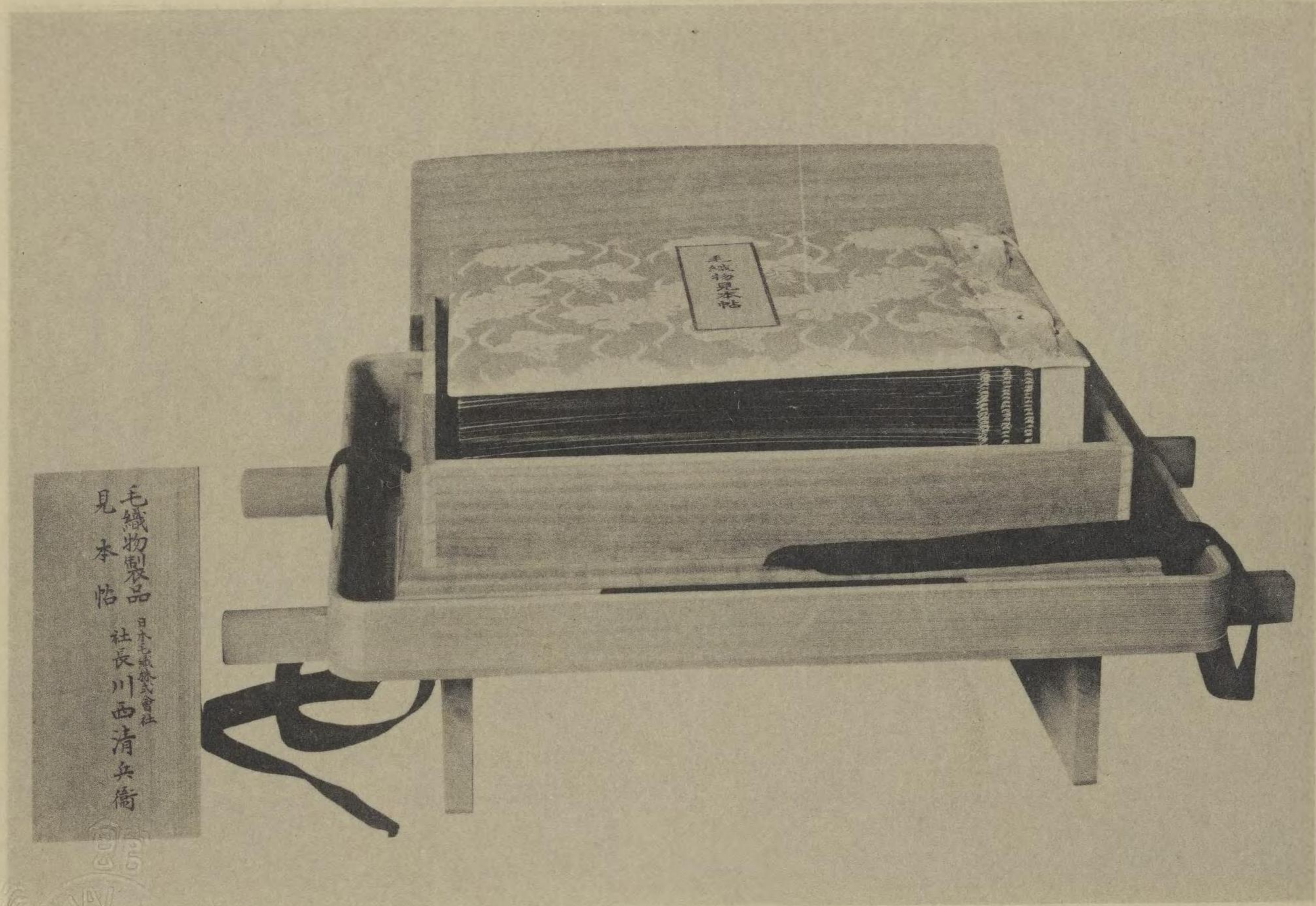


毛織物製品
見本帖
昭和四年四月五日
川西清太郎

昭和四年四月五日 川西清太郎
毛織物製品見本帖



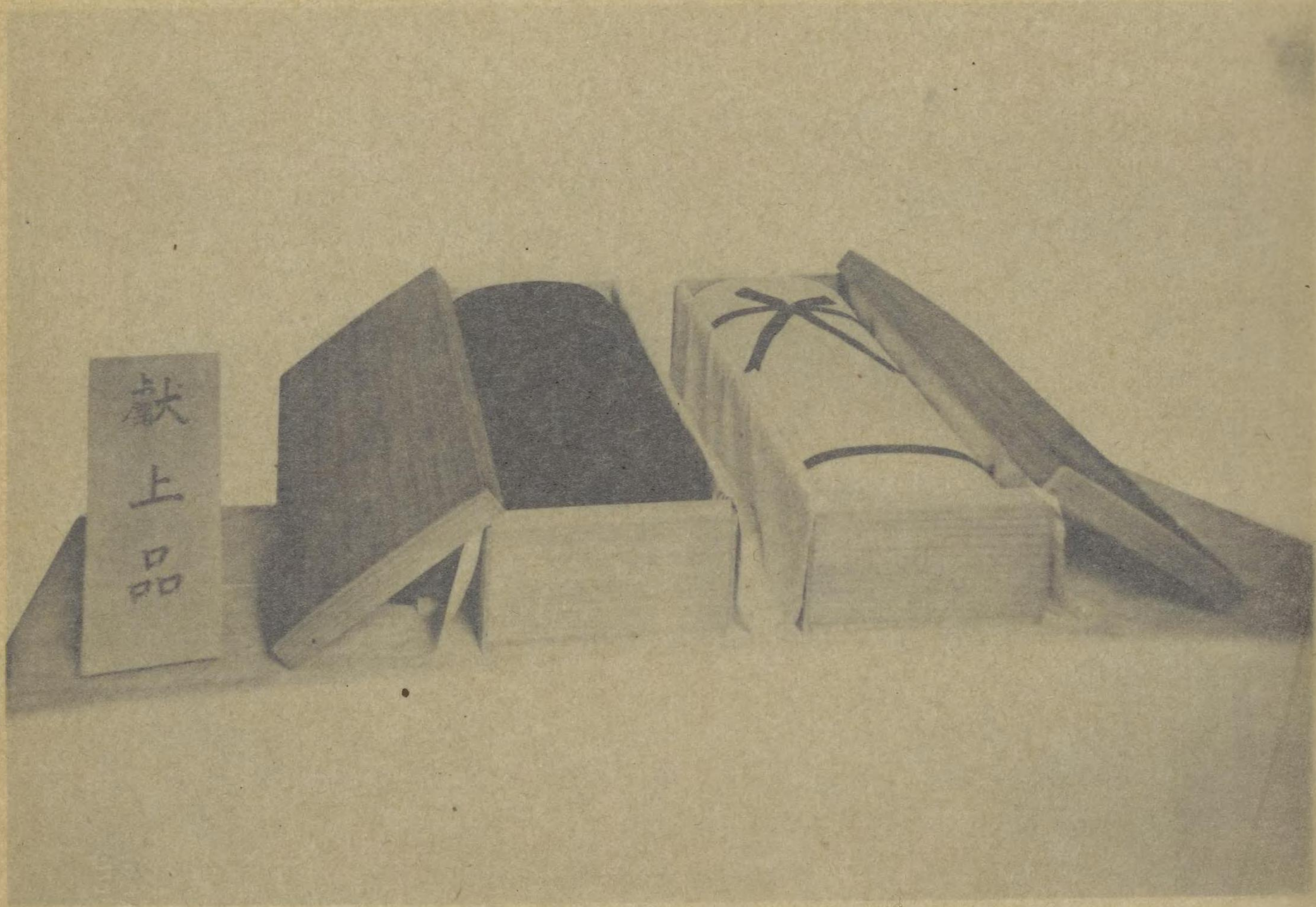
昭 和 四 年 五 月
上 御 嘉 納 せ ら



毛織物製品
見本帖
日本毛織物協会
社長 川西清兵衛

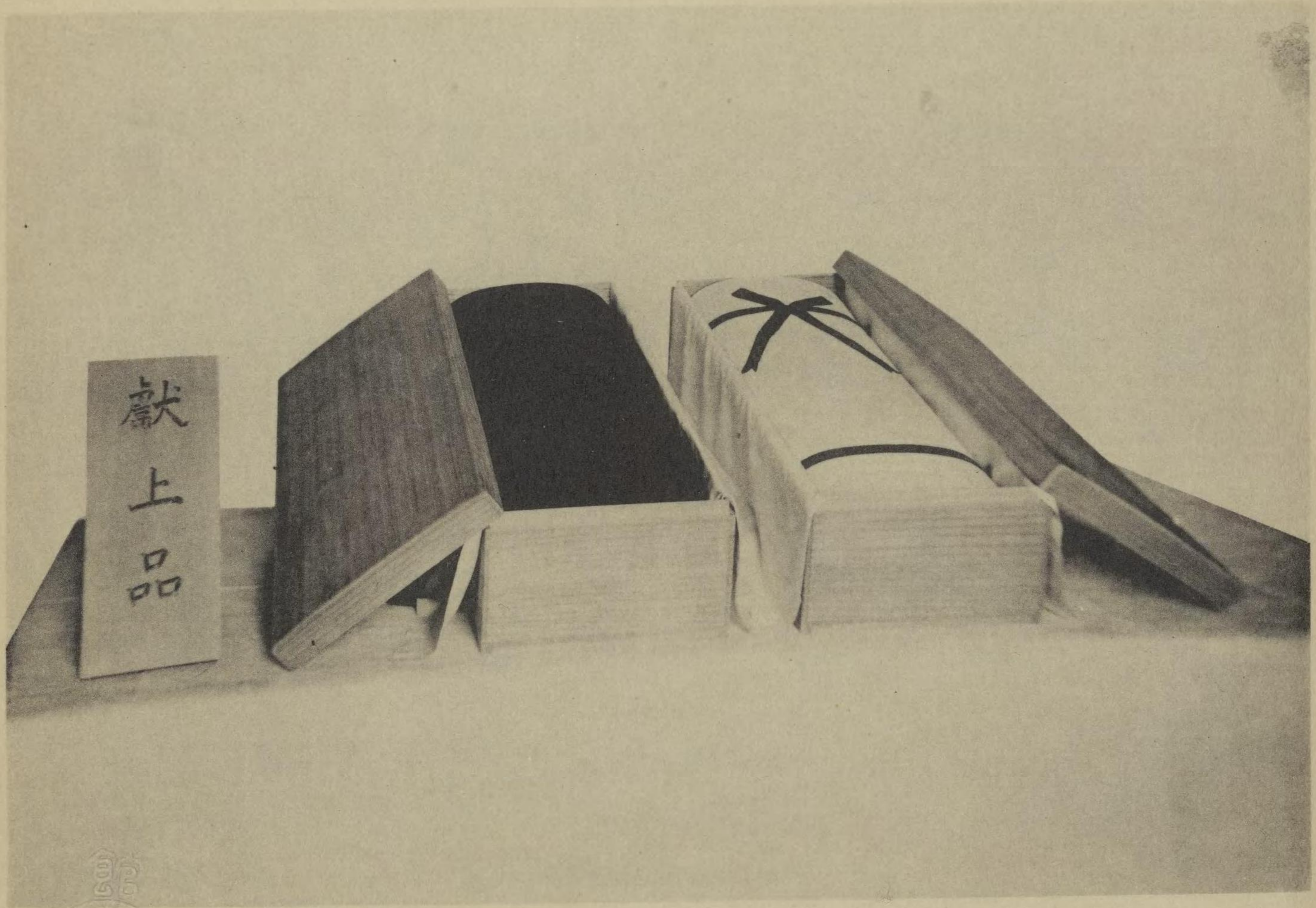
昭和四年五月 聖上陛下神戶行幸に際し
上納せられたる毛織物製品見本帖





昭和四年五月 聖上陛下神戶行幸に際し
献上御嘉納あらせられたる本社謹製の額





昭和四年五月 聖上陛下神戸行幸に際し
献上御嘉納あらせられたる本社謹製の本



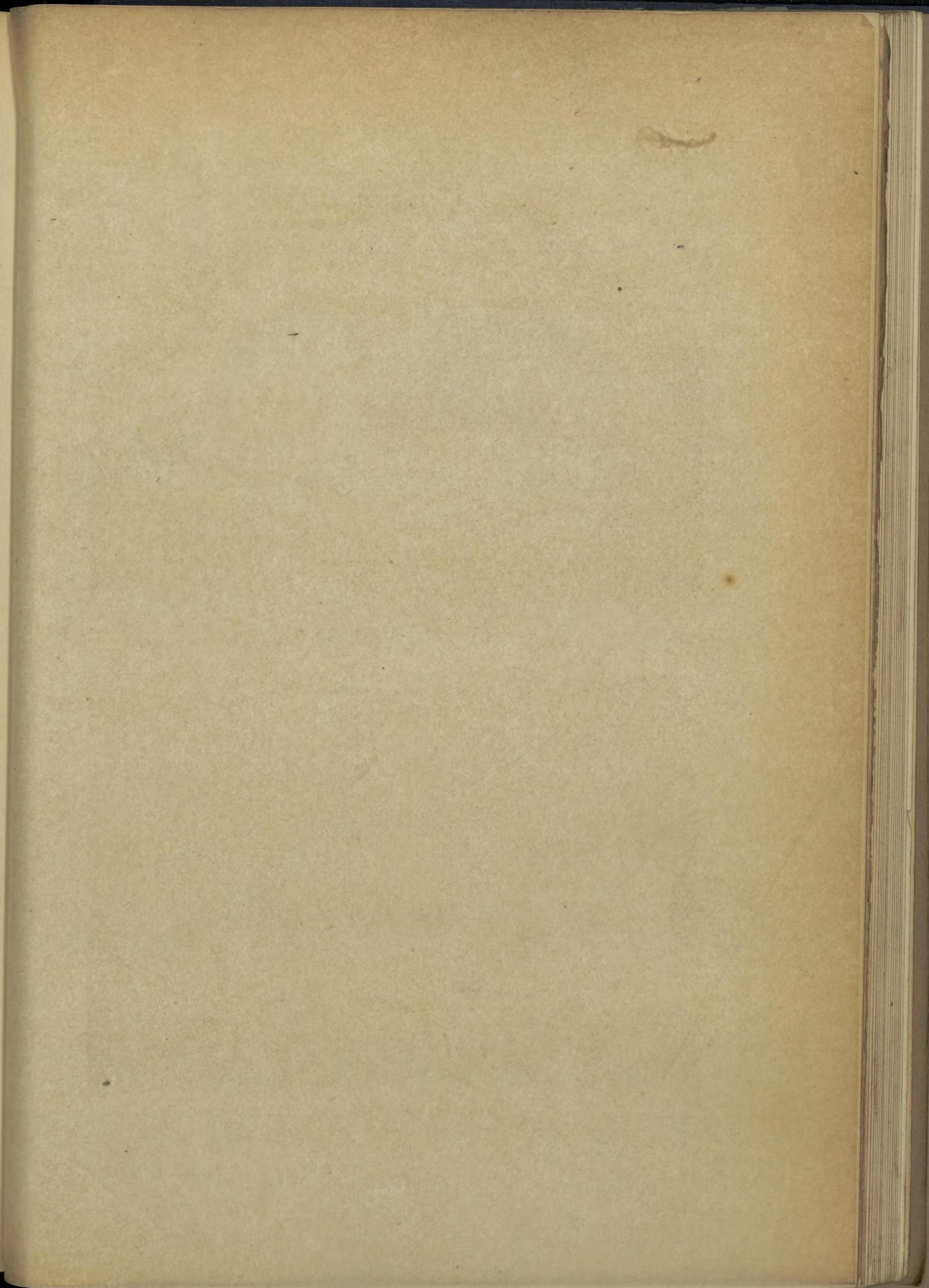
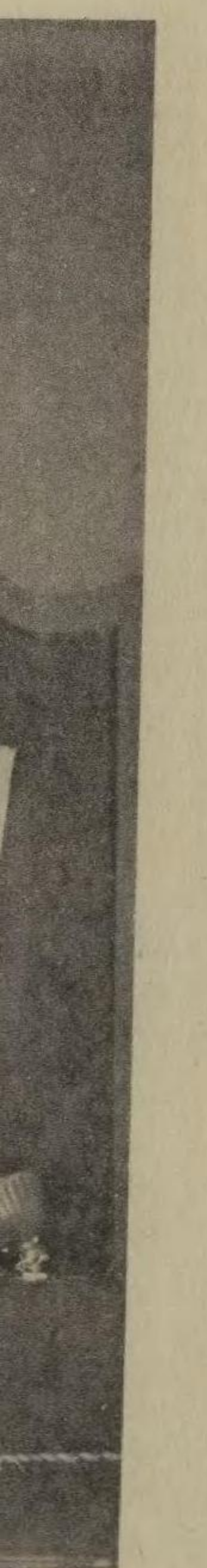
LIBRARY
UNIVERSITY OF
TORONTO



大正十五年七月東京産業文化博覽會出品



大正十四年四月大阪紀念博覽會出品





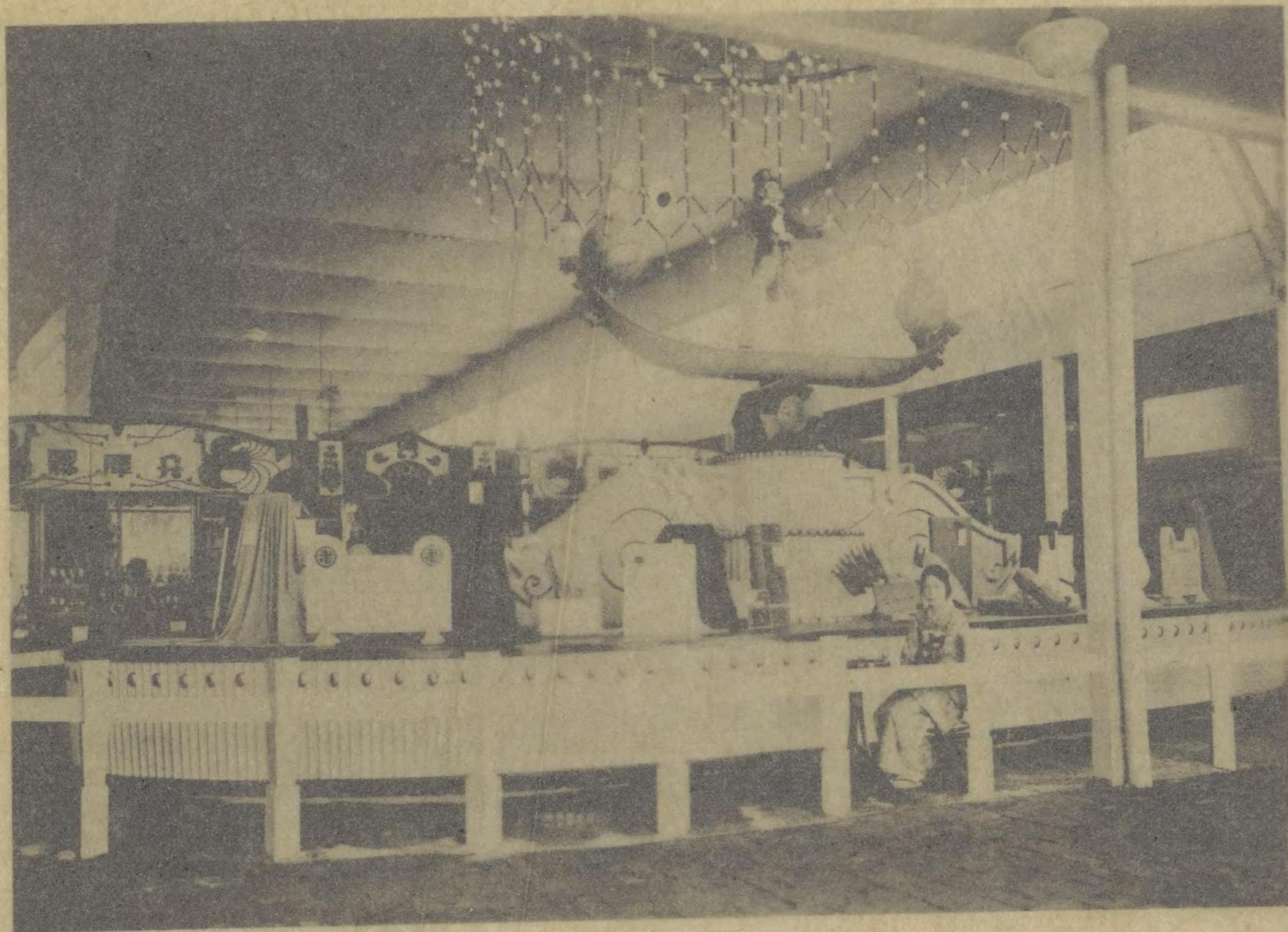
大正十五年七月東京產業文化博覽會出品



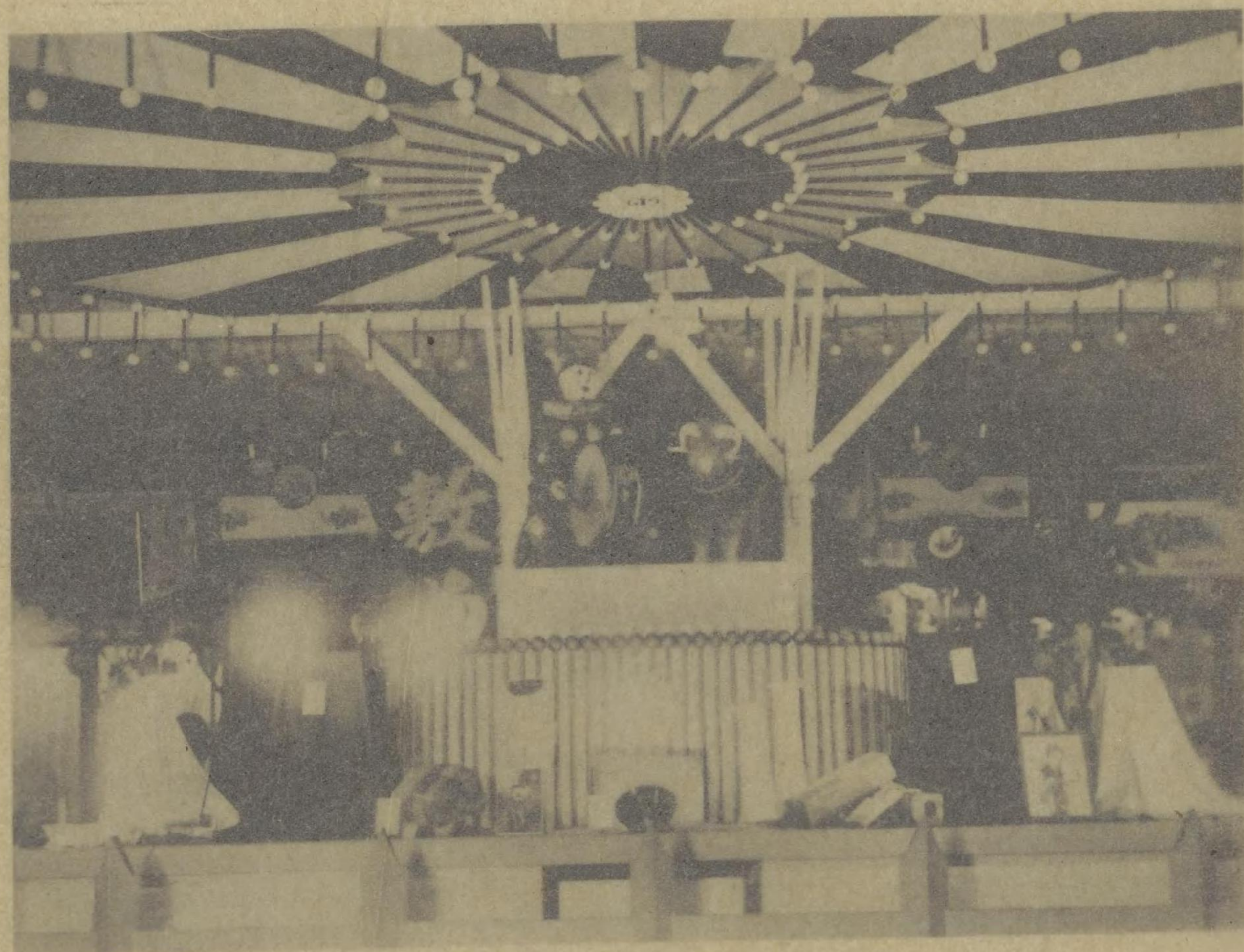
大正十四年四月大阪紀念博覽會出品



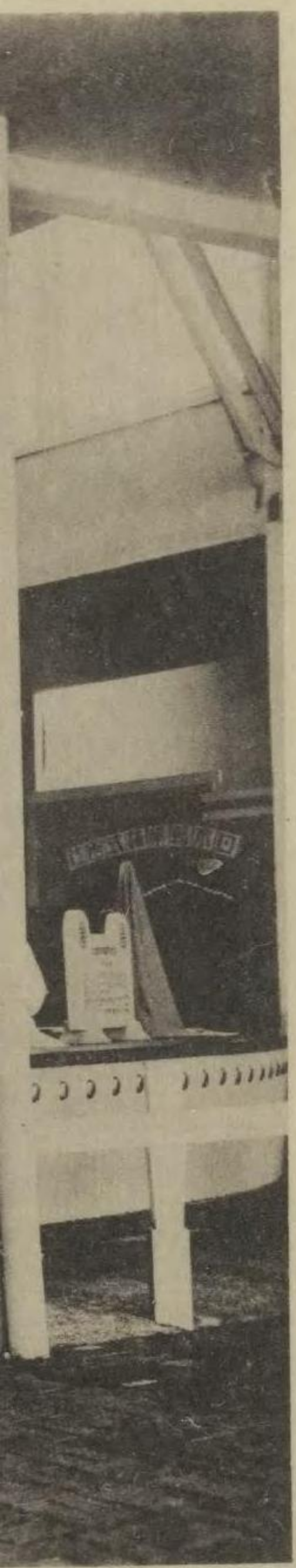
LIBRARY
OF THE
MUSEUM OF
ART AND HISTORY
NEW YORK

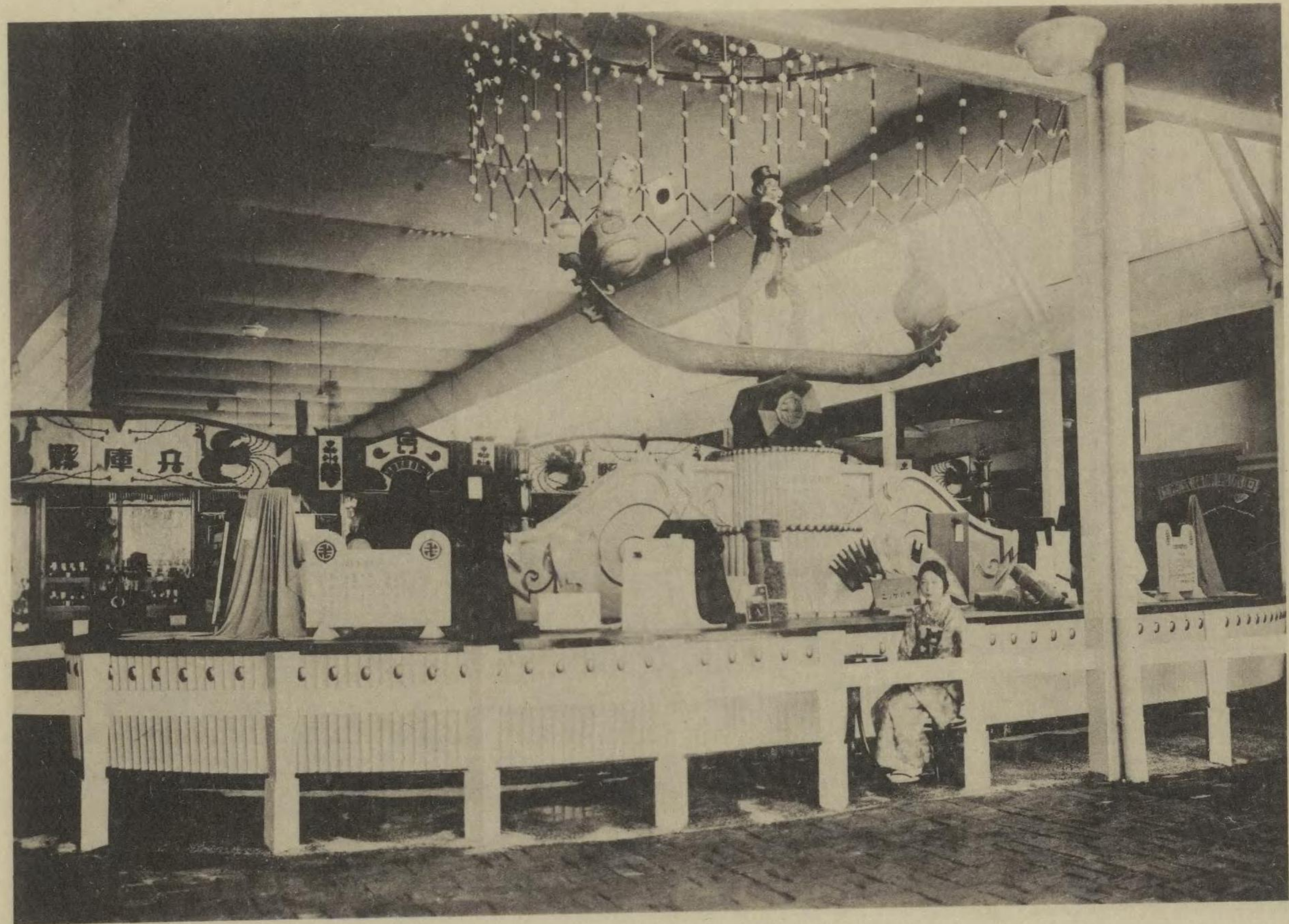


品出會覽博大都京念記禮大月九年三和昭

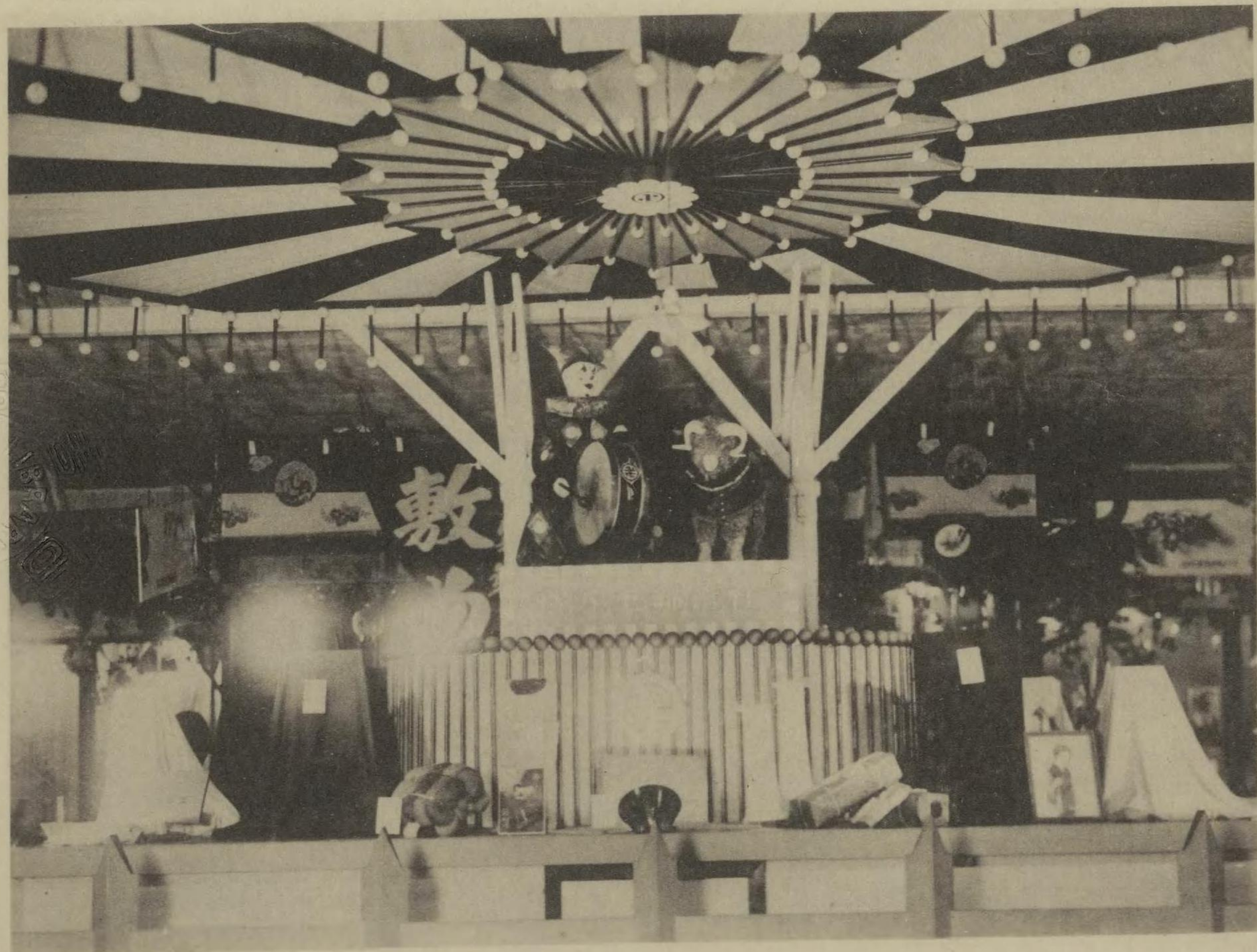


品出會覽博戶神月十年三和昭

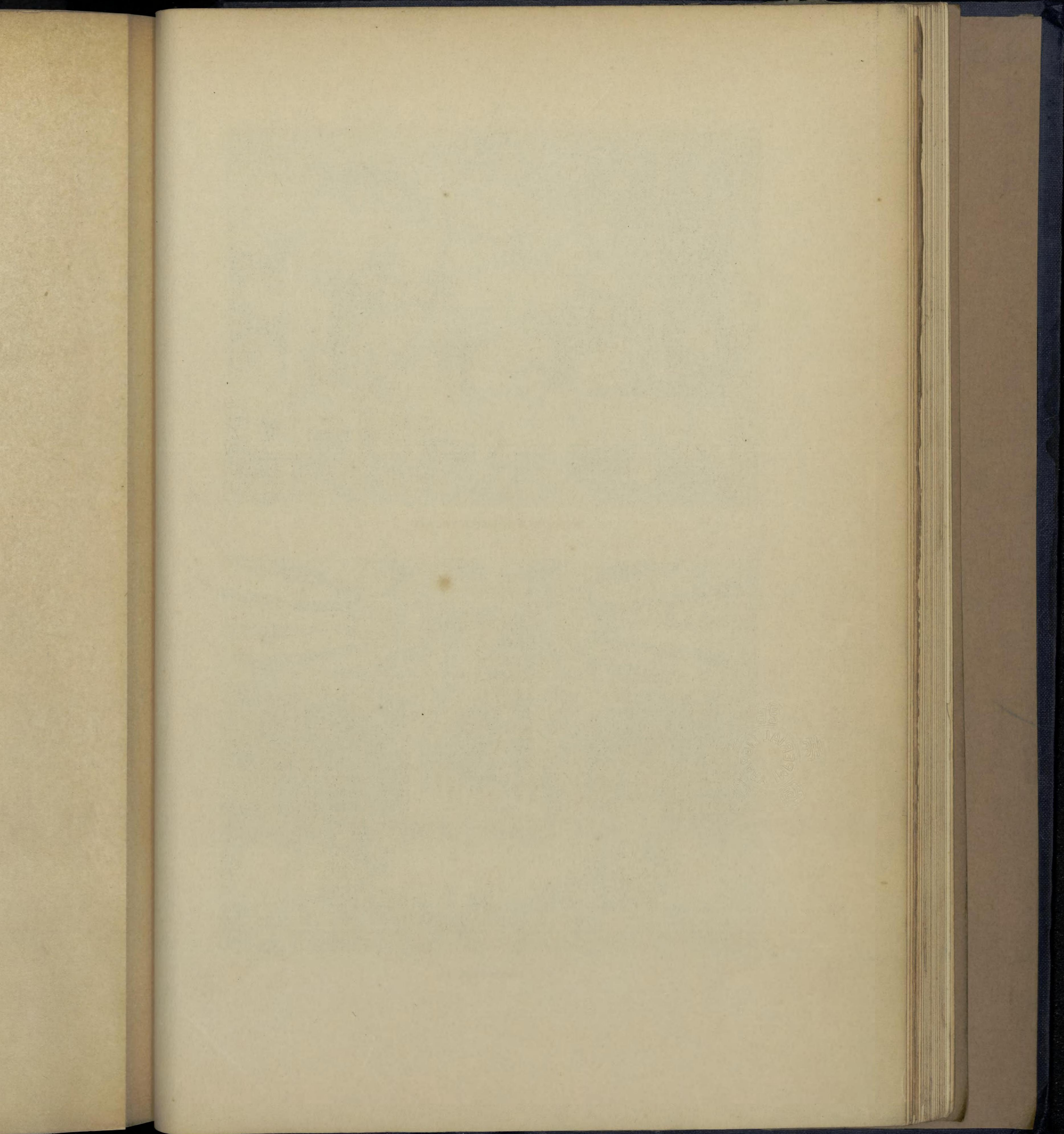




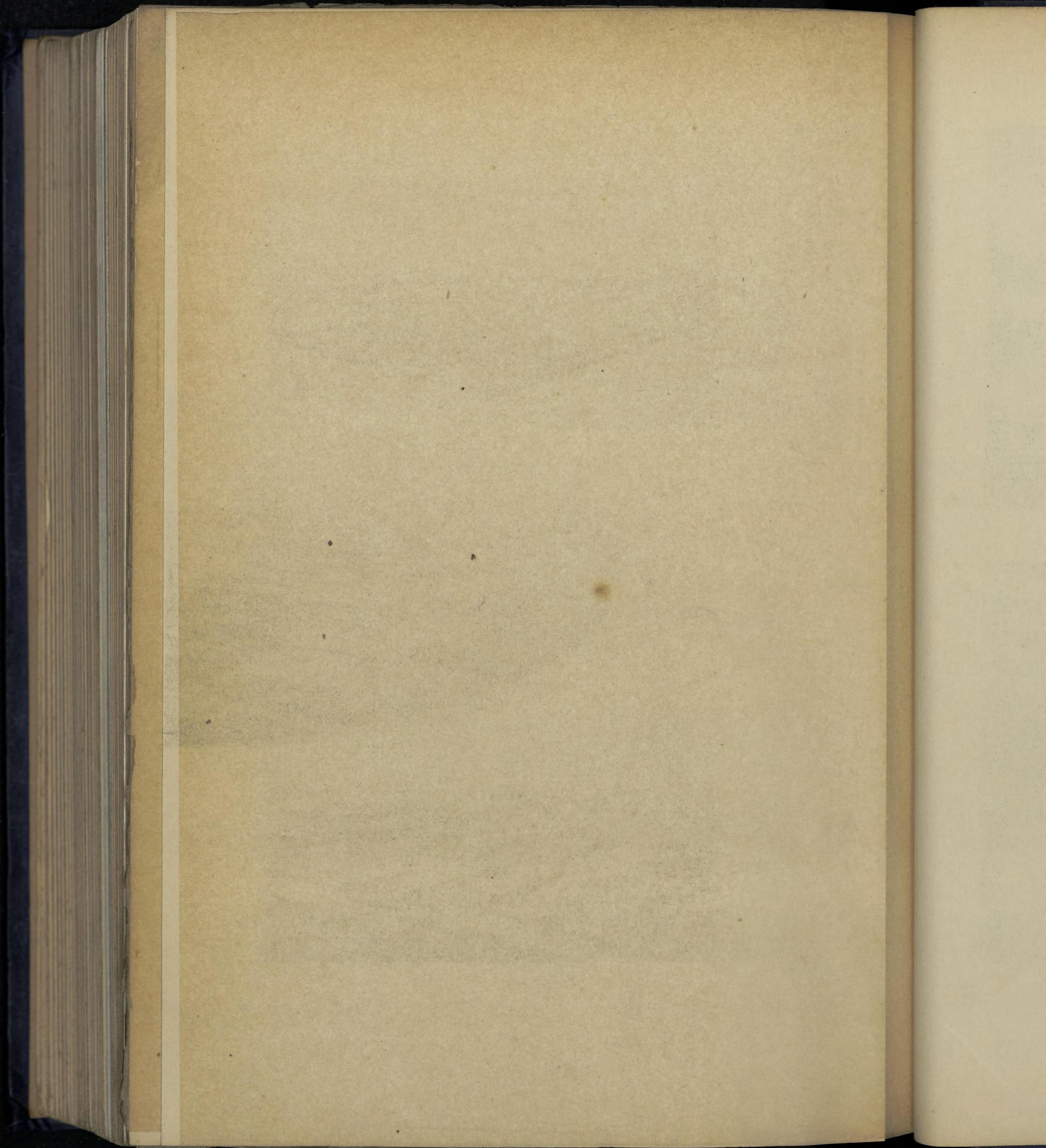
品出會覽博大都京念記禮大月九年三和昭

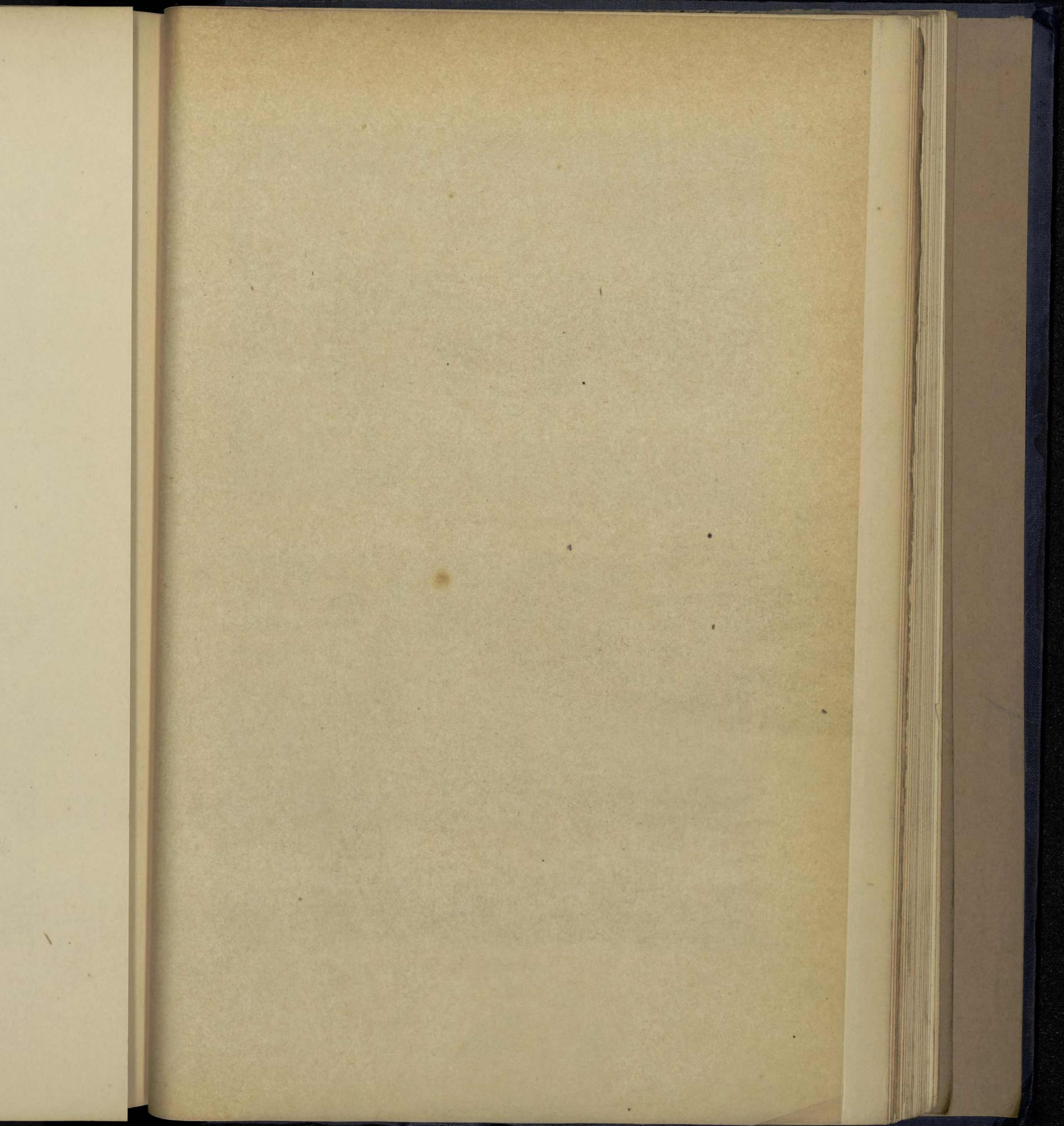


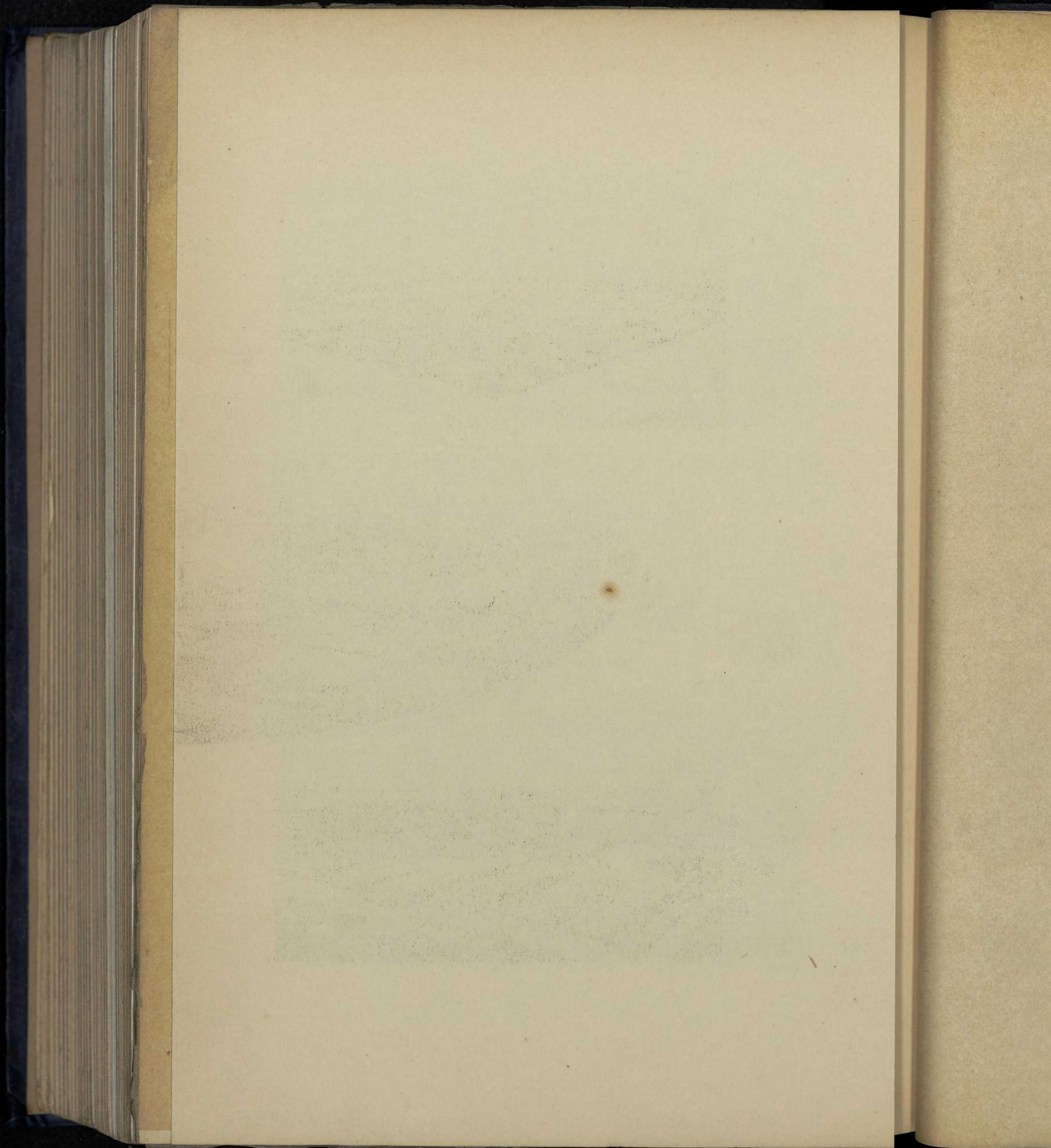
品出會覽博戶神月十年三和昭



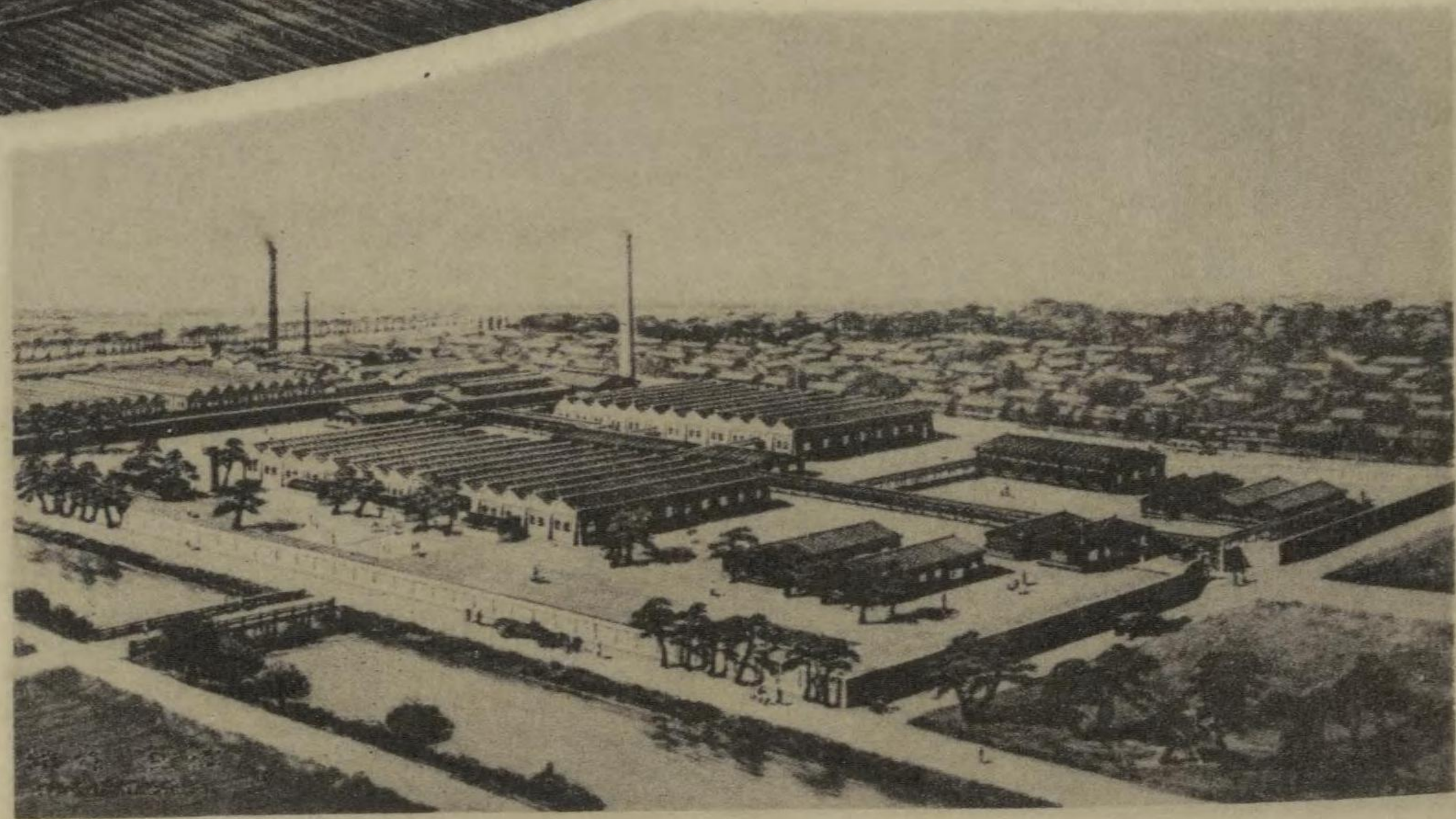
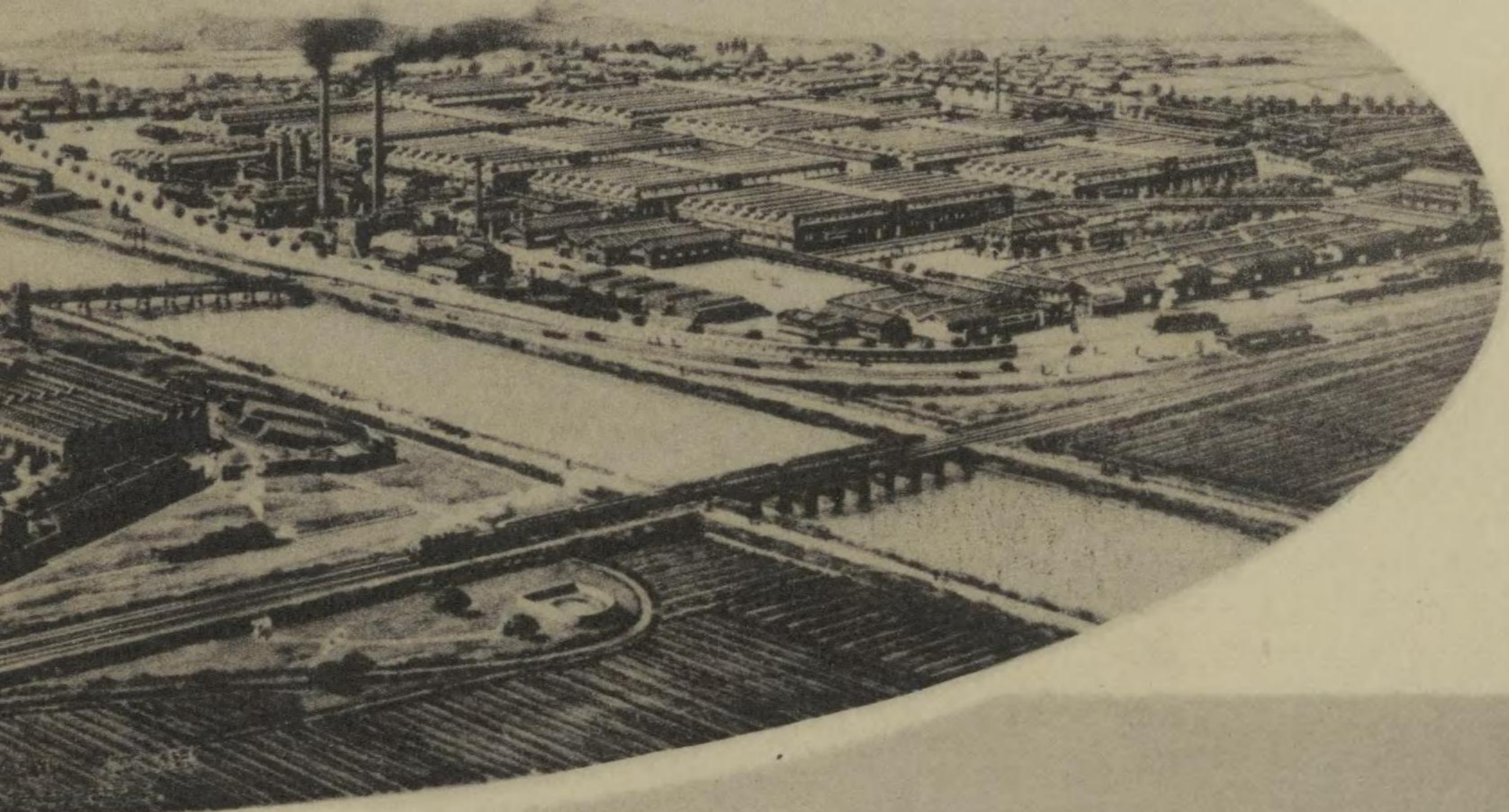
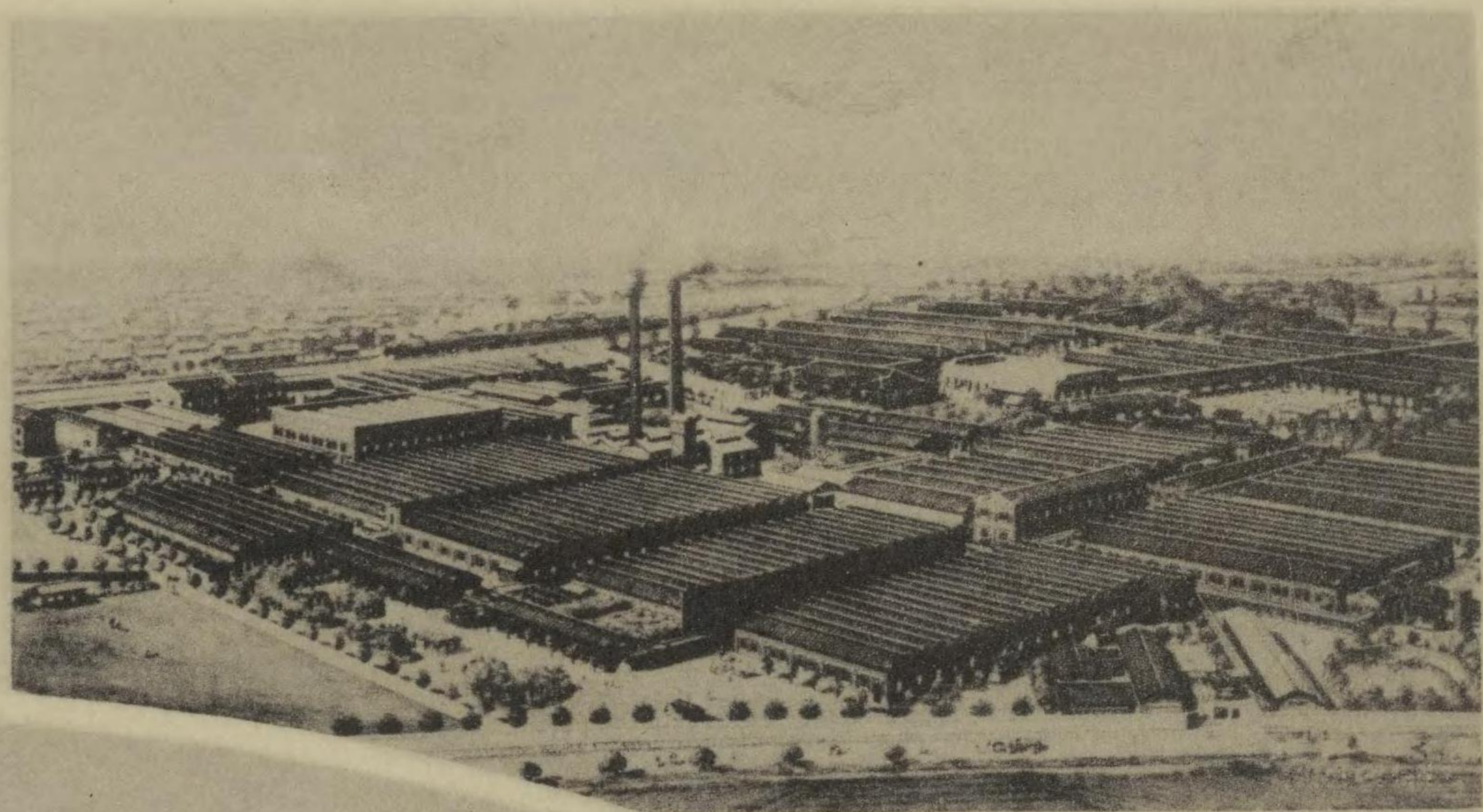
LIBRARY
UNIVERSITY OF
TORONTO





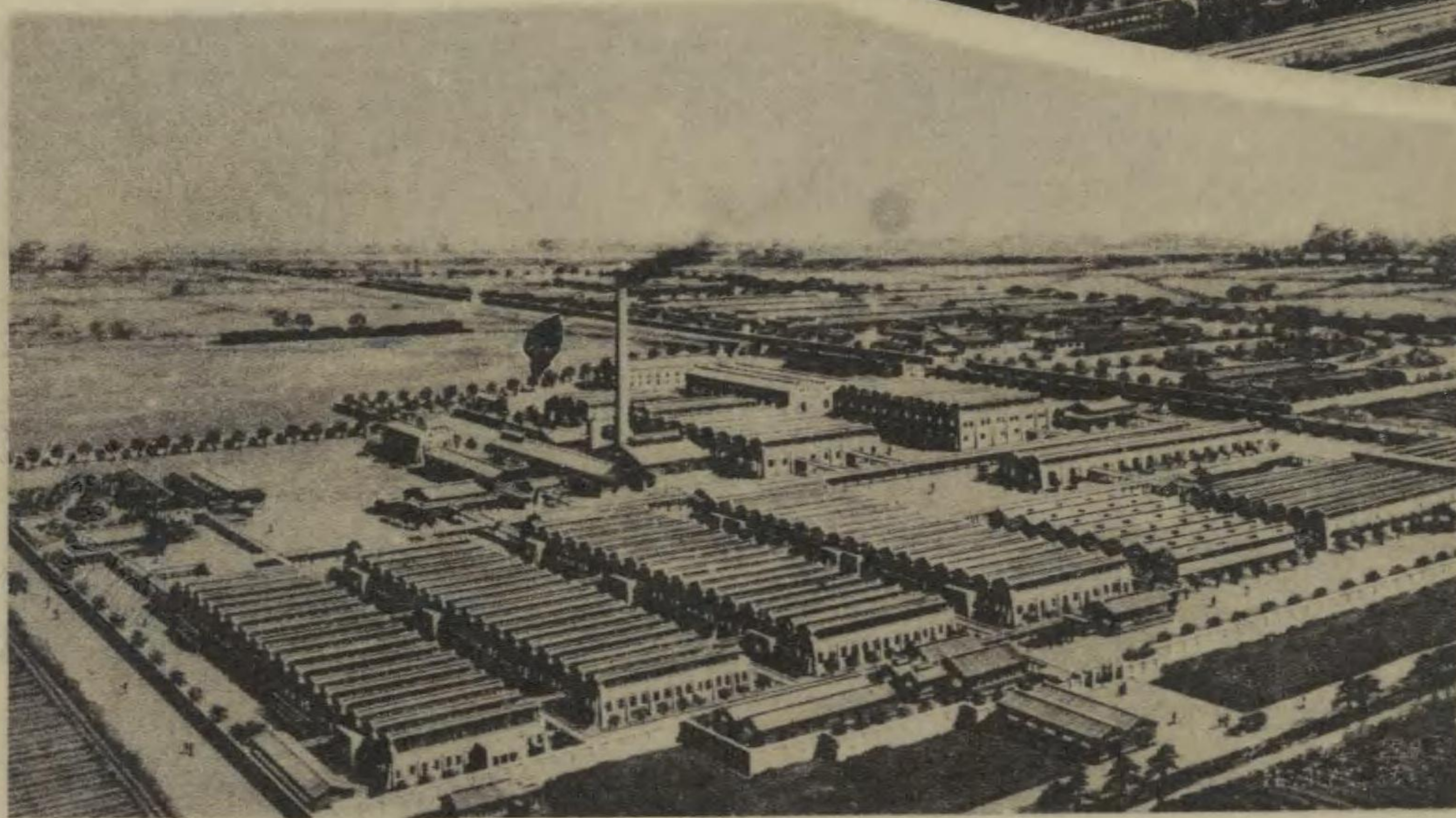
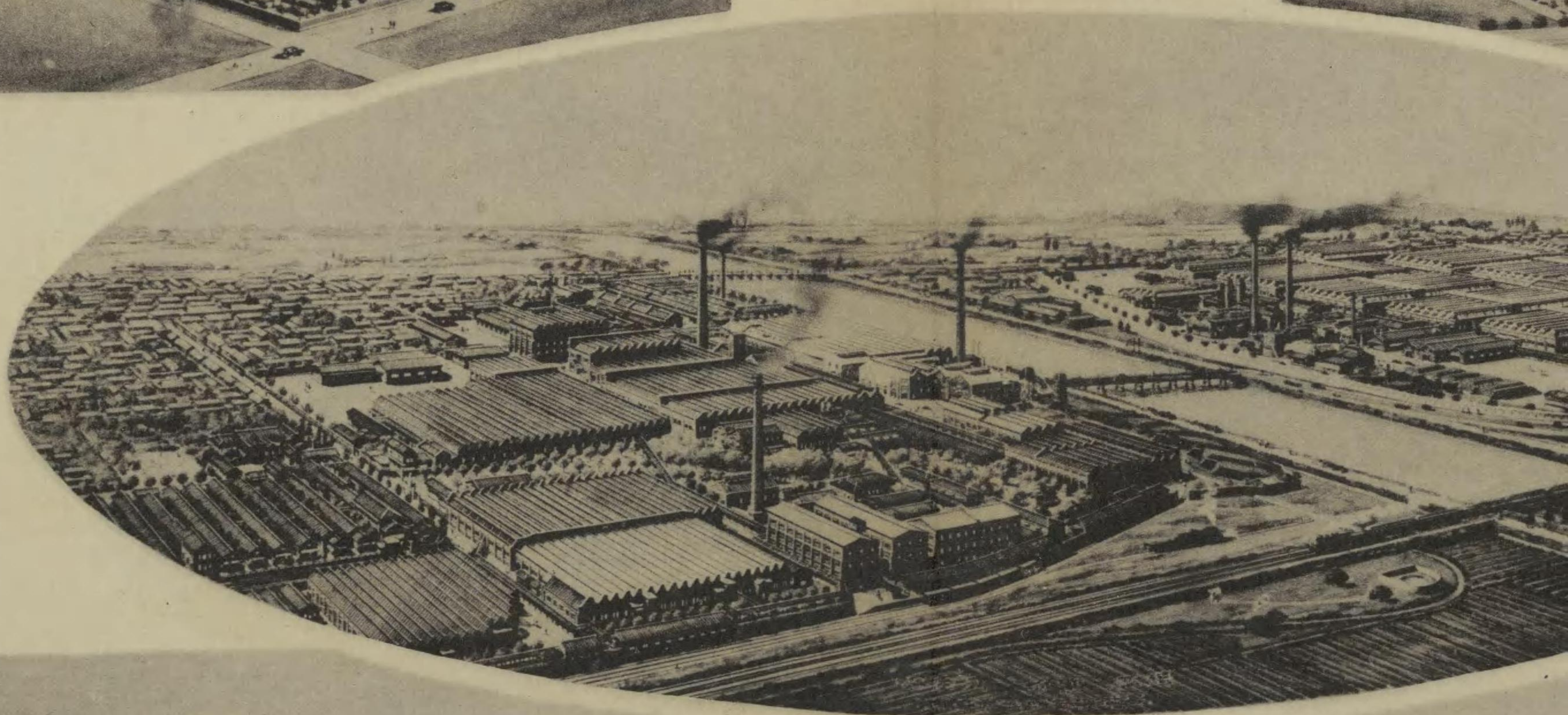
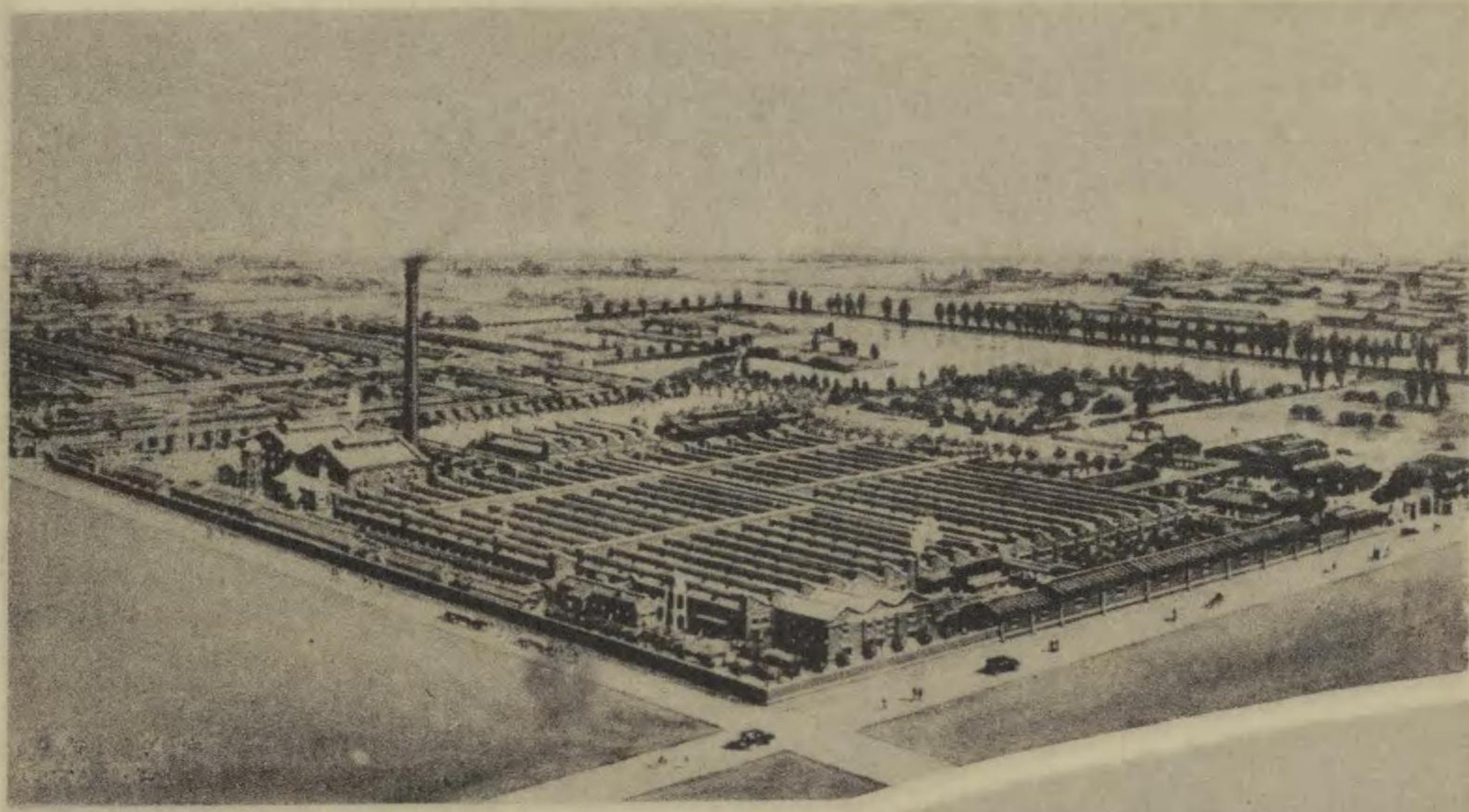


各社本

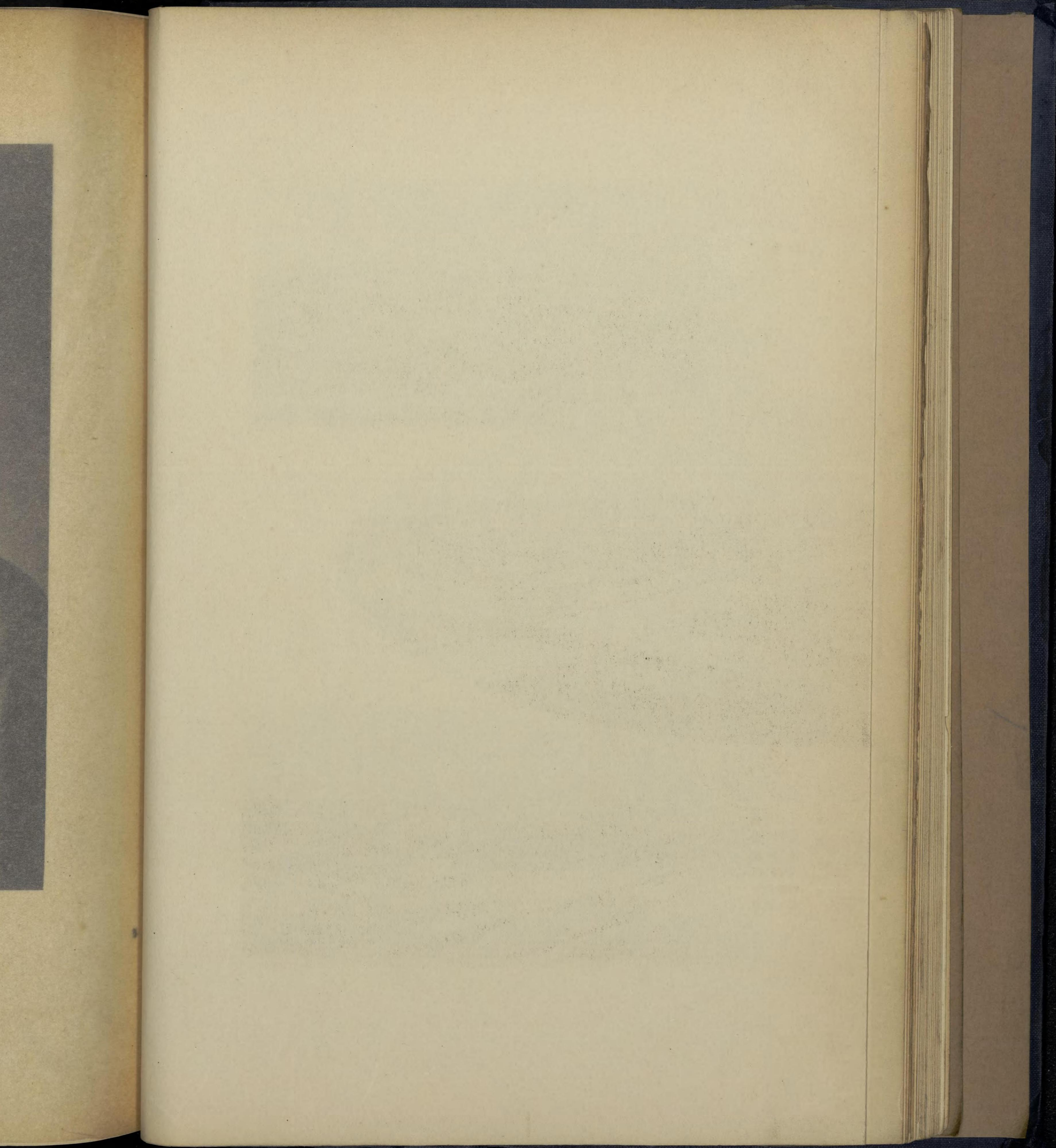


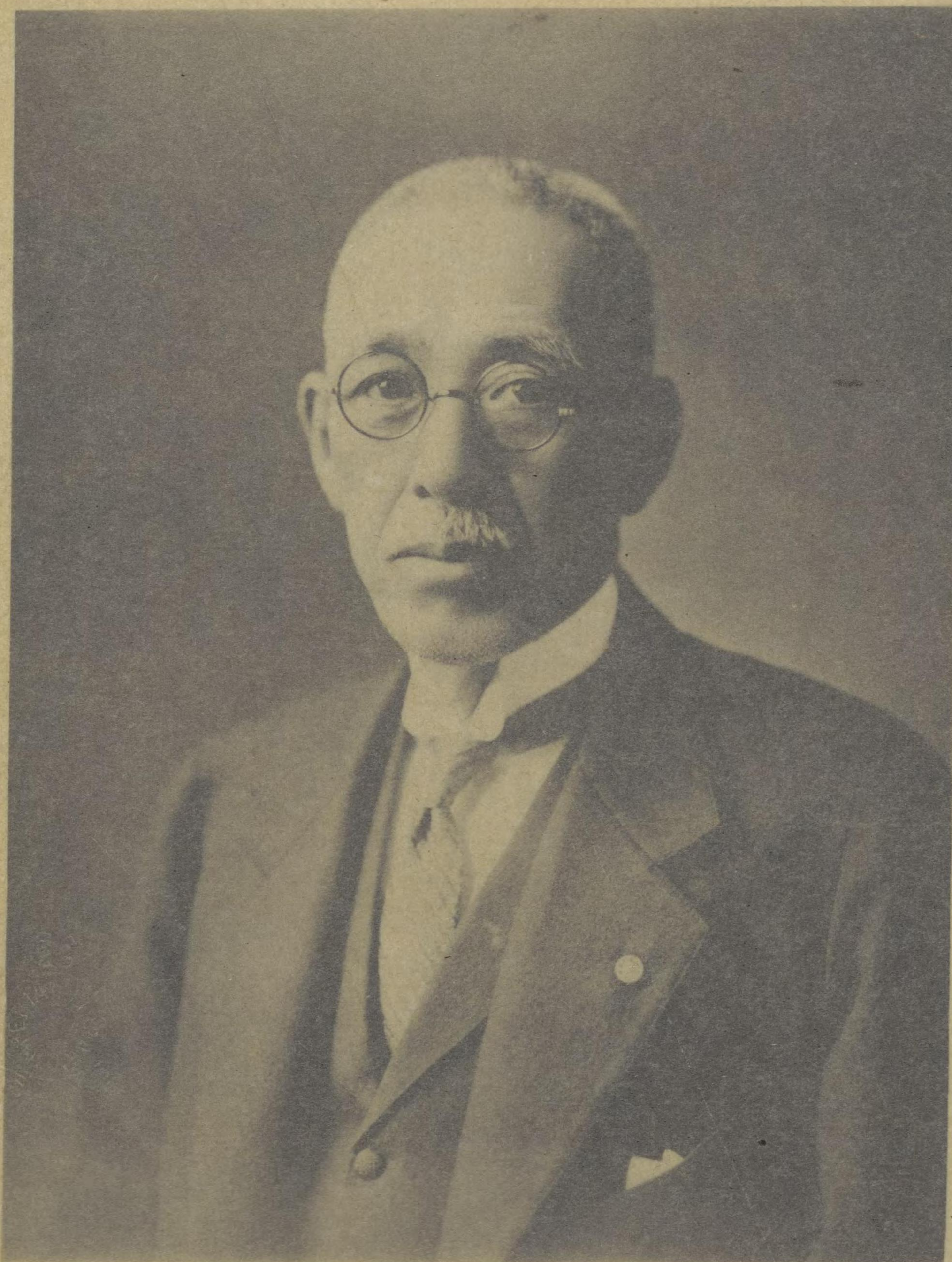
立 創
金 本 資
金 立 積
員 業 從
地 敷 場 工
額 年 產 製

本社各工場全景

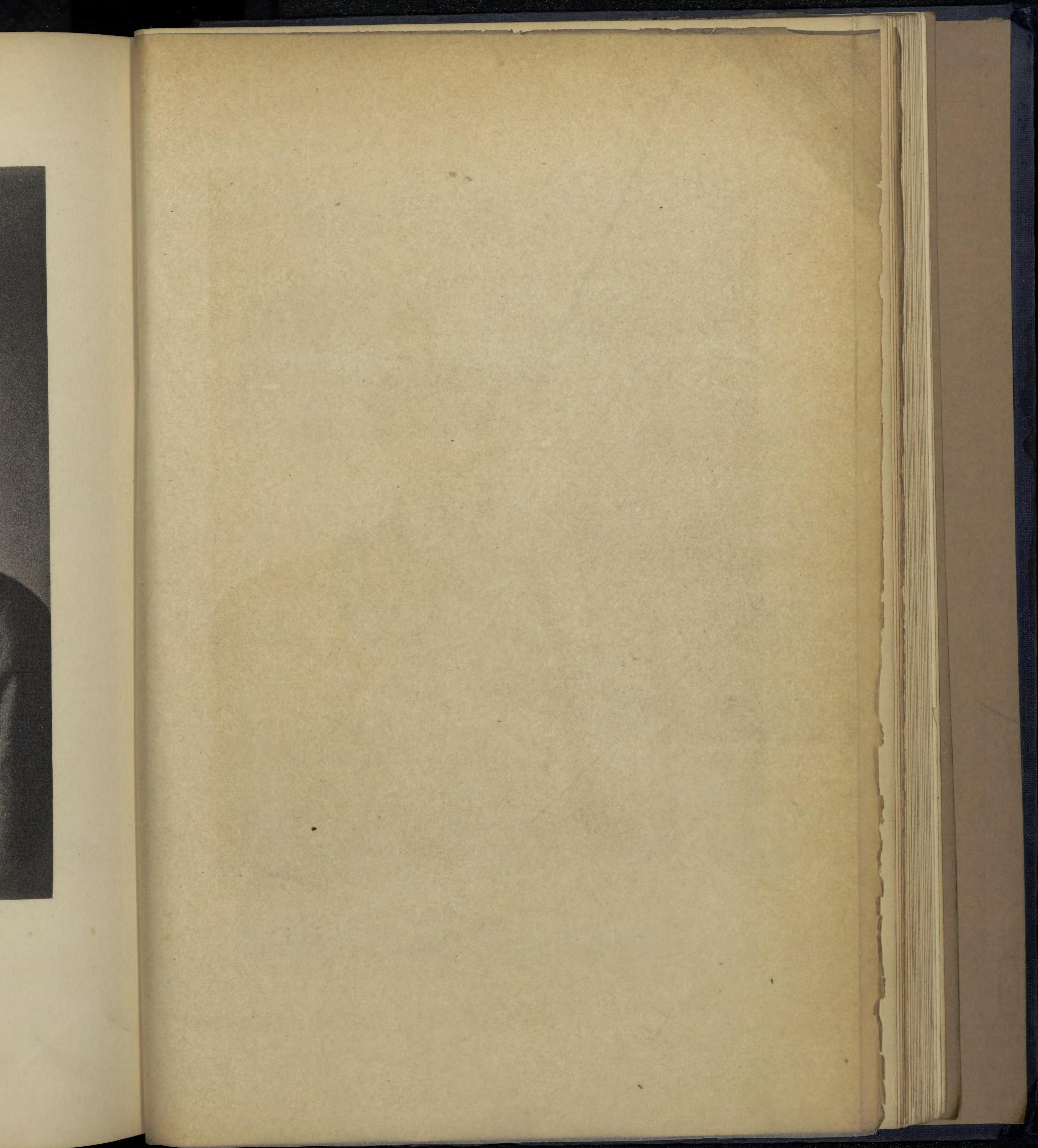


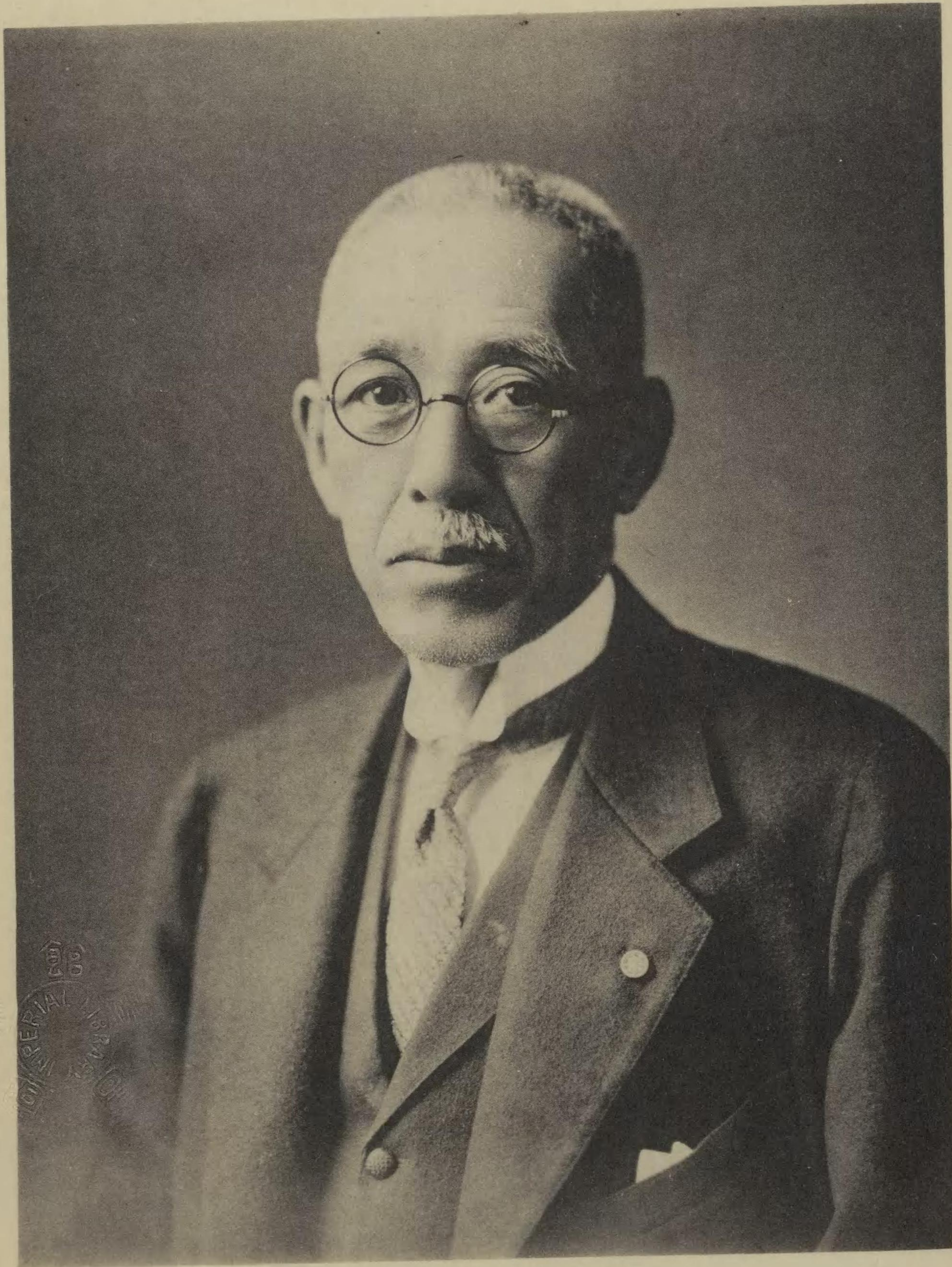
年	九	十	二	治	明	立	創
圓	萬	萬	千	五	五	金	資
圓	萬	萬	五	二	二	金	積
人	千	萬	十	一	一	員	從
坪	萬	萬	千	四	四	地	工
圓	萬	萬	千	八	八	額	製
						年	產





氏衛兵清西川 長社役締取



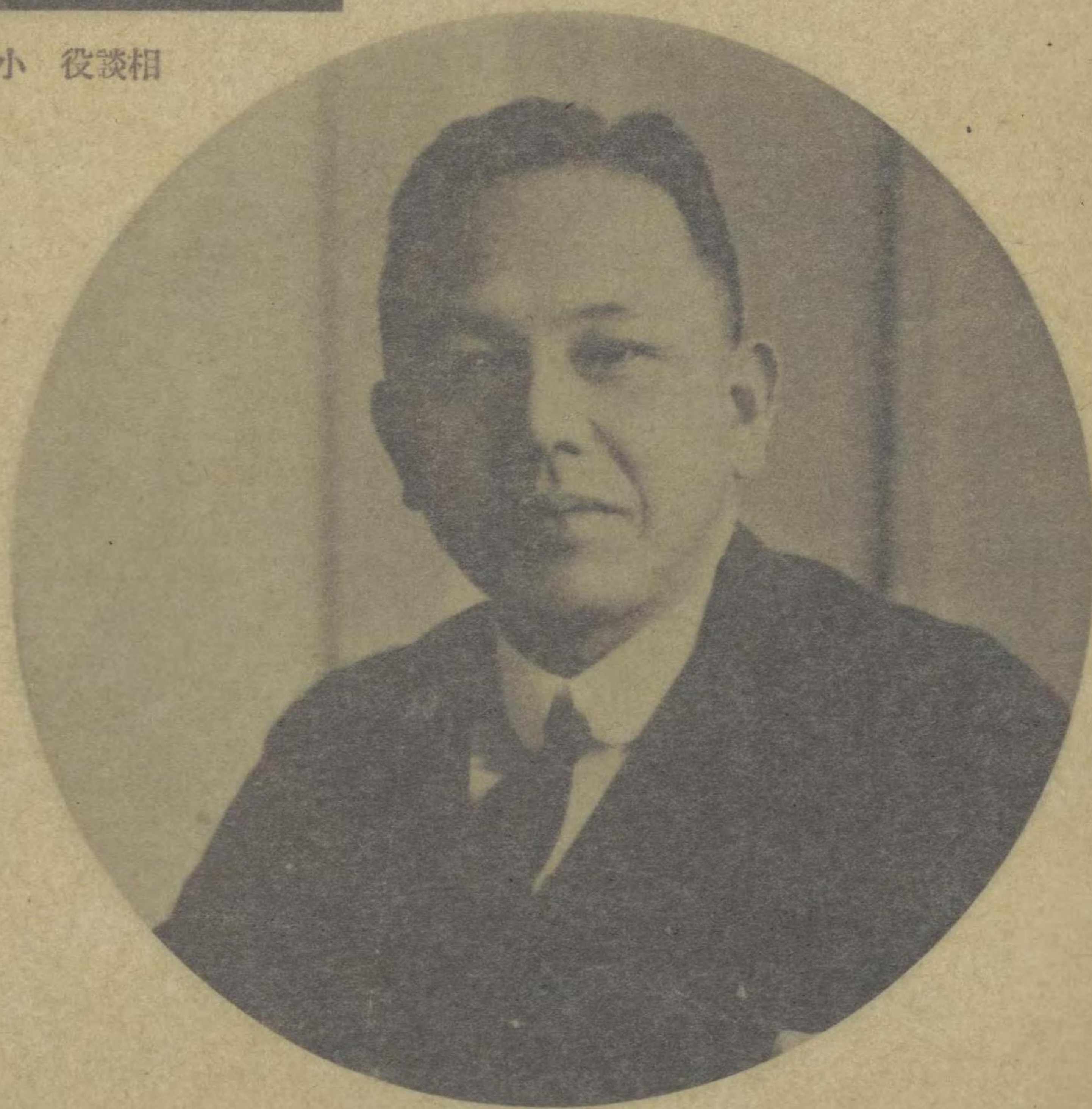


氏衛兵清西川 長社役締取





氏郎一喜根曾小 役談相



役締取務常
氏郎二敬脇塚





相談役 小曾根喜一郎氏



常務取締役
塚脇敬二氏

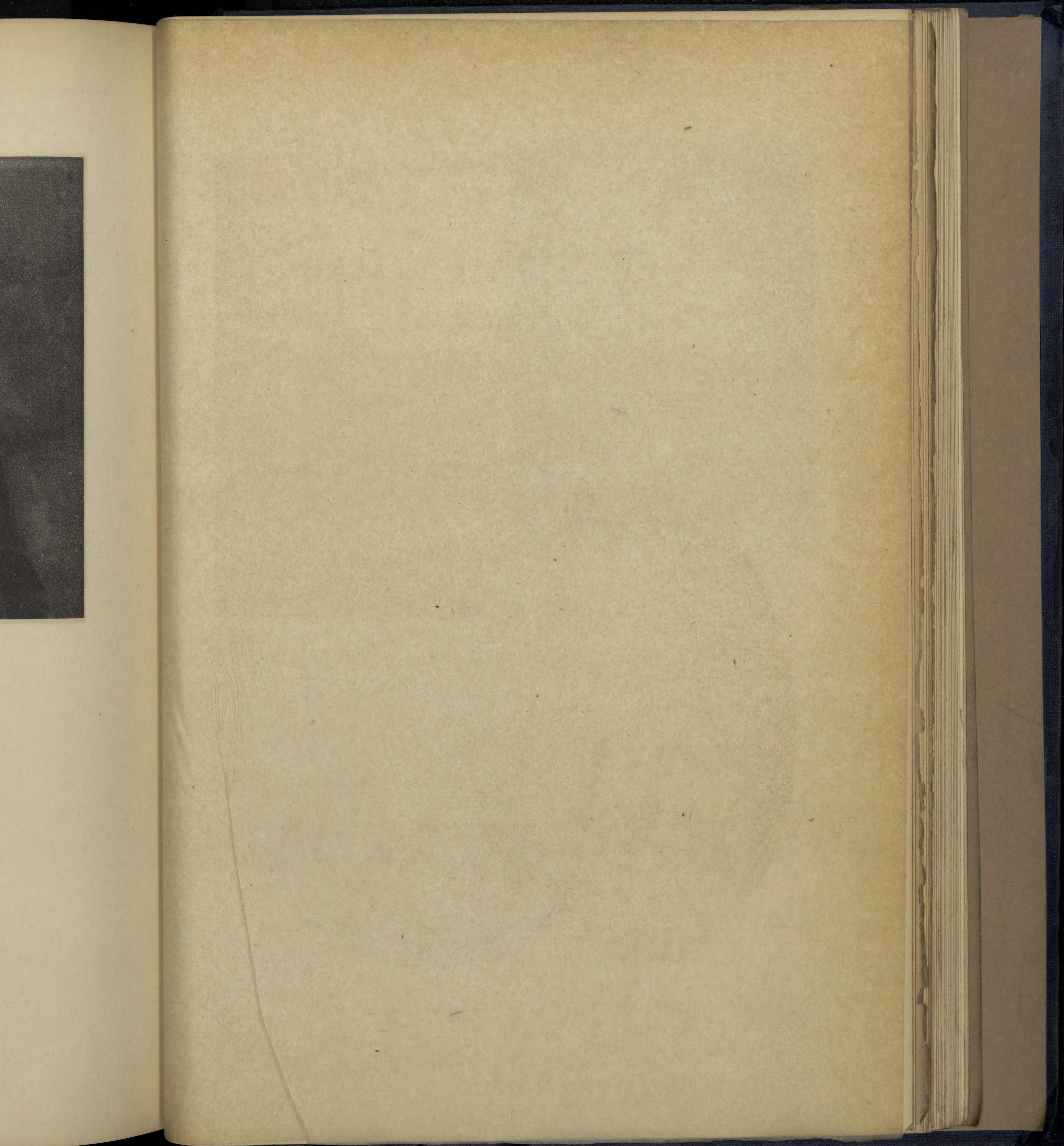




氏長 江谷 役締取



役締取
氏郎次幸方松





氏長江谷 役締取



役締取
氏郎次幸方松





氏郎市村田 役締取



氏一喜倉小 役締取





氏郎市村田 役締取

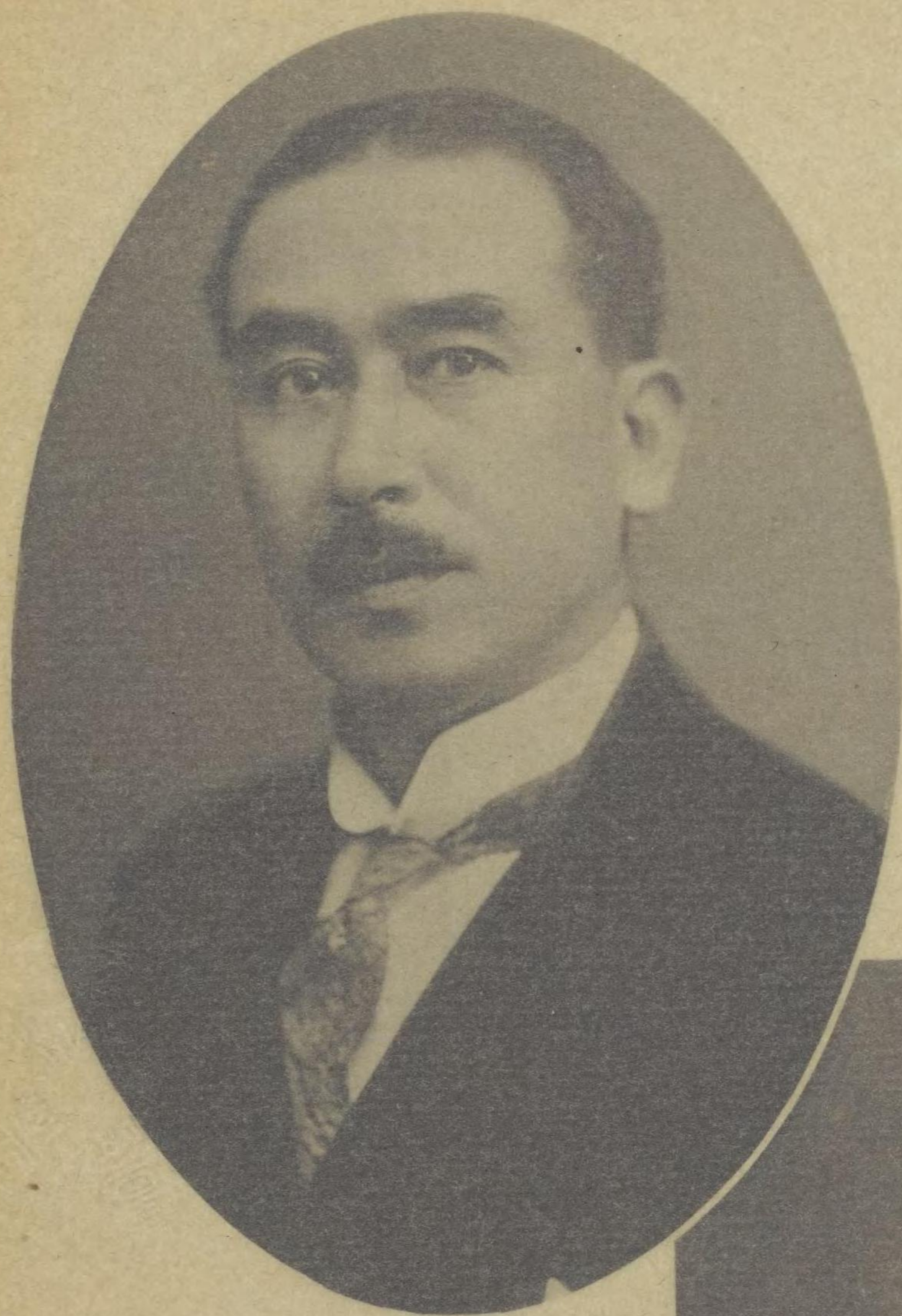


氏一喜倉小 役締取

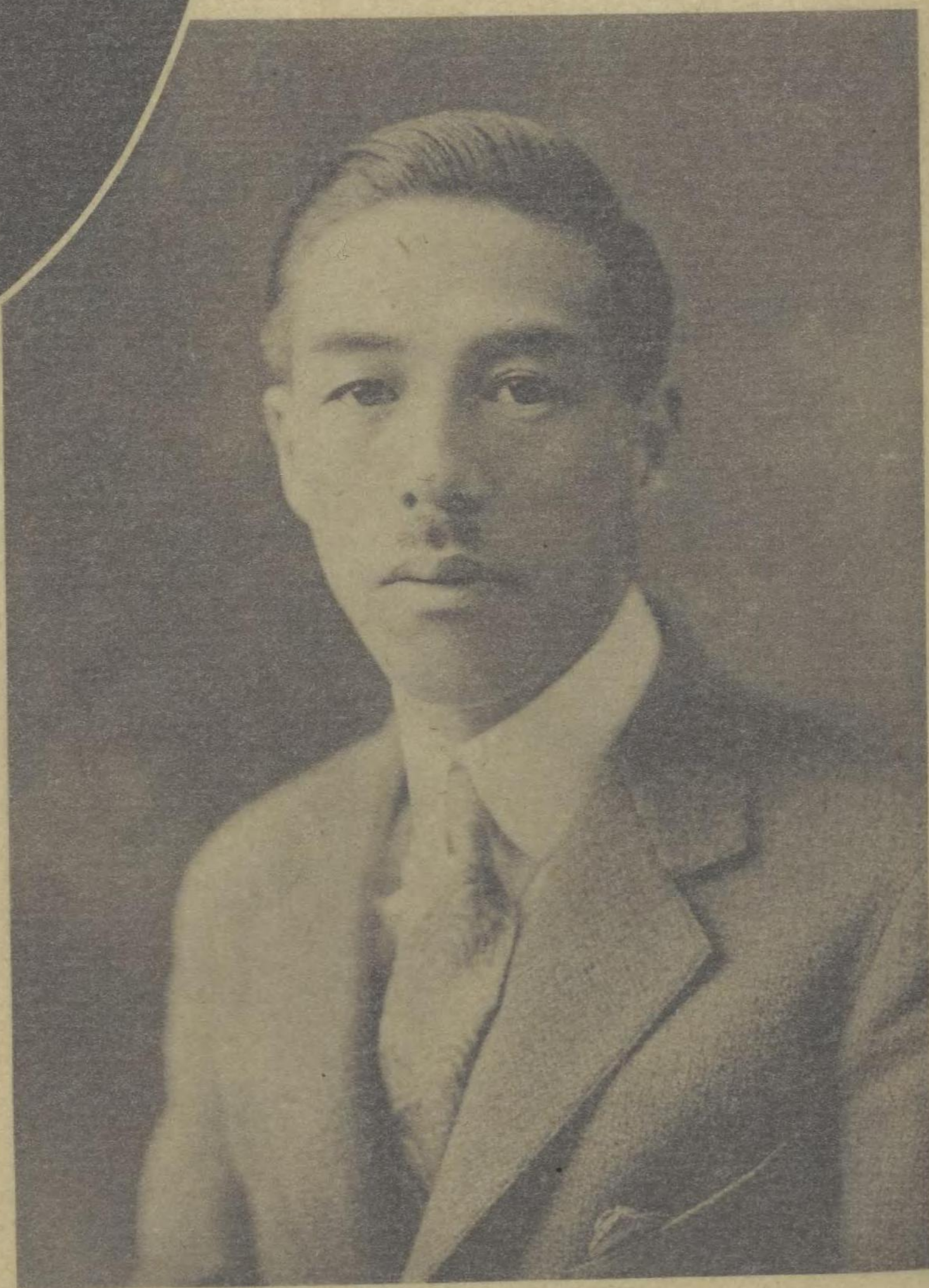


反





役締取
氏松貞根曾小



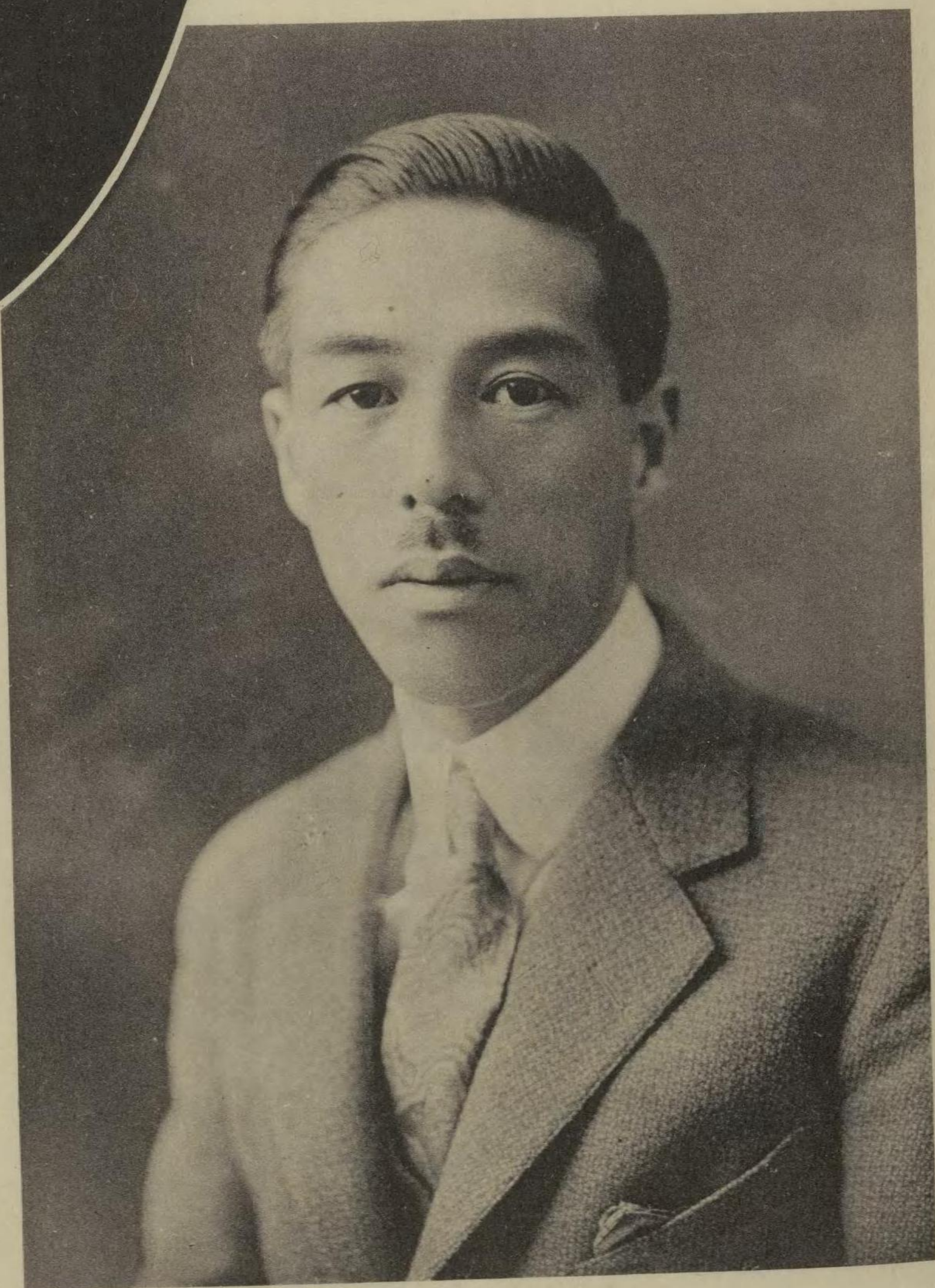
氏司清西川 役締取



反



役 締 取
氏 松 貞 根 曾 小



氏 司 清 西 川 役 締 取



LIBRARY
UNIVERSITY OF
TORONTO



氏郎次鐵本松 役查監



氏元勝戶毛 役查監





氏郎次鐵本松 役查監

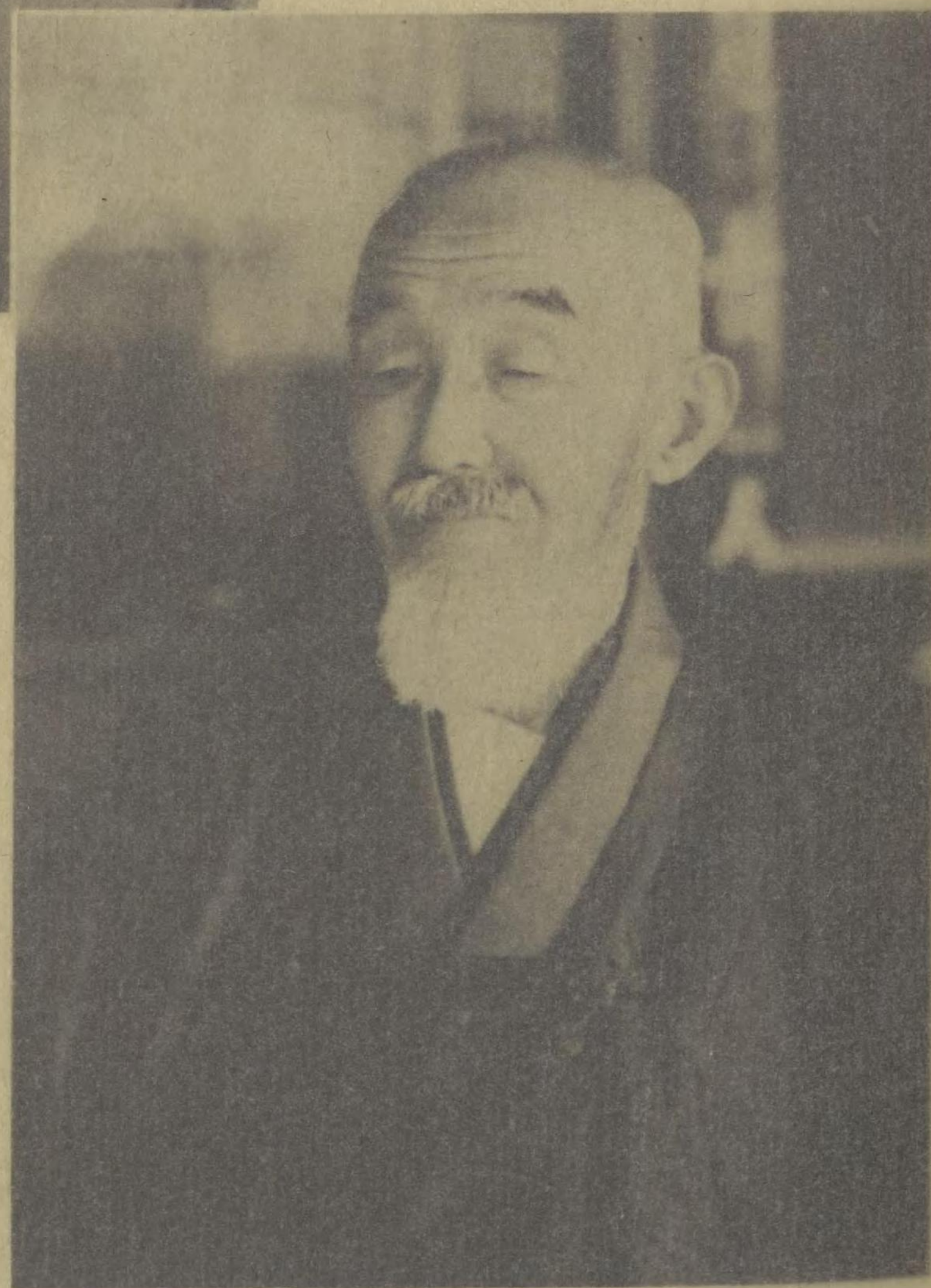


氏元勝戶毛 役查監

LIBRARY
OF THE
MUSEUM OF
COMPARATIVE ZOOLOGY
AND ANATOMY
HARVARD UNIVERSITY
CAMBRIDGE, MASS.



氏郎三彌野佐 役査監

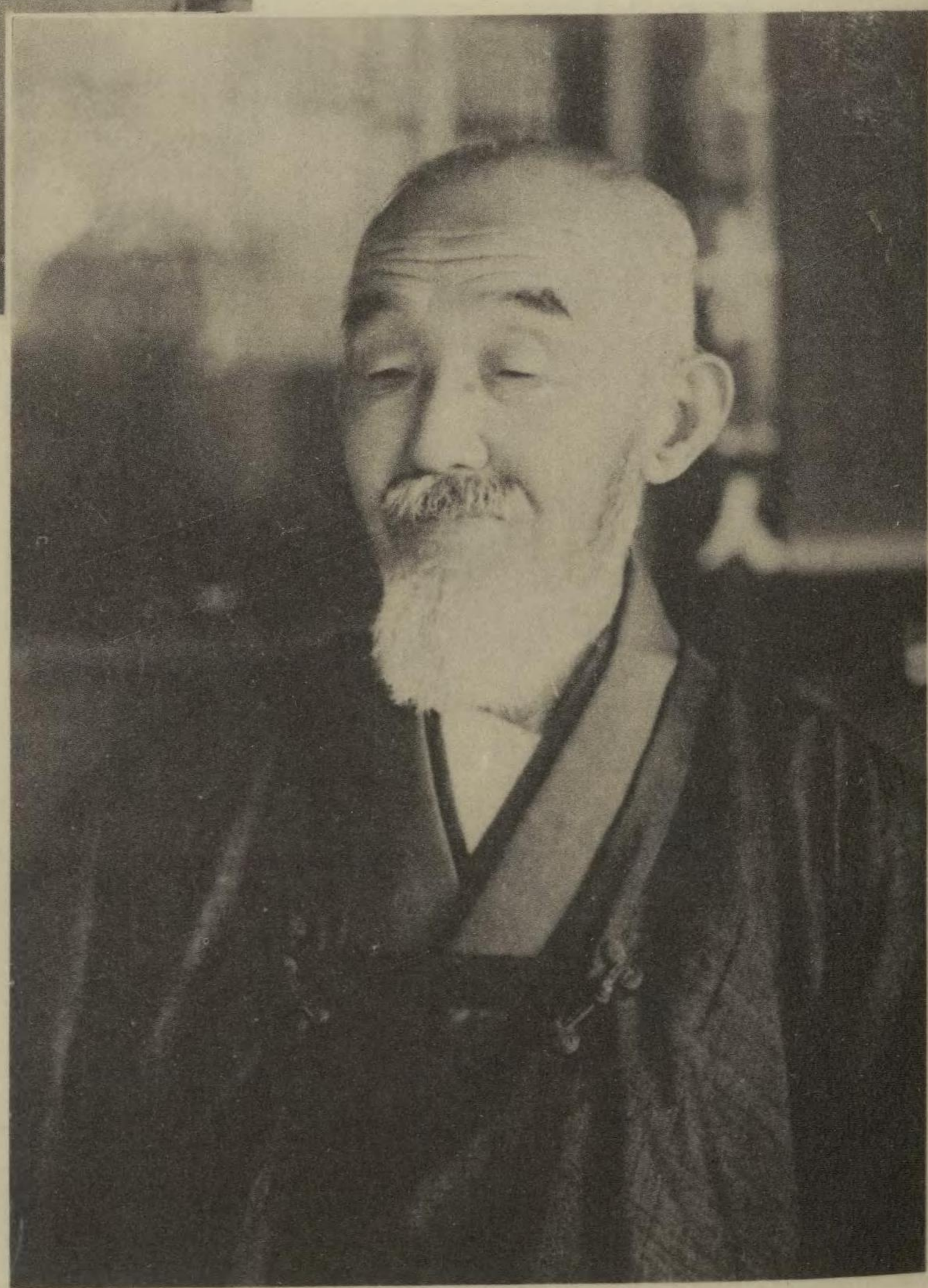


氏郎太市馬有 役談相元





氏郎三彌野佐 役查監



氏郎太市馬有 役談相元





氏衛兵庄木柏 役齋取元



氏介之源光米 役齋取元



元